

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	矢野 花織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論演習Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年次に習得した「日本語教育に関する基礎知識」を具体的な授業場面のイメージとつなげながら展開していくことを目標に、テキストを用いたり、グループ発表を行ったり工夫しながら、基本的な内容をていねいに振り返りながら進めていった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された			達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「到達度自己評価」については全項目の平均値が4.4、「授業の質評価」については全項目の平均値が4.8であることから、学生の目標達成状況は達成されたものと理解している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機としては全員が「資格取得に必要である」「必修科目である」ことを受講動機としている一方で、講義最終回のアンケートでは「学びを深めたいと意欲をもつことができた」と全員が回答している（「かなりそうだと思う」83%、「わりにそうだと思う」17%）。 このことから、本科目が単位取得のみならず学生の興味関心を引き出すなど、内容的妥当性が高かったと判断できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講人数が少ないため、毎回の授業における学生の理解度や興味関心も確認しながら、授業を進めていくという本授業のデザイン・運営を引き続けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の授業評価アンケートから、本授業の内容および進め方は学生のニーズとマッチできていたと考えられる。学生の知識、興味関心や本専門分野に対する姿勢などにもよるが、1年目に学んだ基本的なことをふりかえりつつ、実践につなげていくという演習スタイルを継続し、また、さらに工夫していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（旧約聖書）	1	前期	必修	はい	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	本講義は、本学の建学の精神である「感恩奉仕」の土台となる聖書理解が目的である。旧約聖書の基礎を体験的に習得できるよう、聖書を自ら開き声に出して輪読すること、紙芝居や絵本の読み聞かせ、DVD鑑賞、ディスカッションなどを取り入れた。チャペルへの参加や教会訪問、ミッションデーのレポートなどを評価に取り入れ、授業外でもキリスト教に触れる体験の機会を促した。 建学の精神に直結する大切な学びとなるため、毎回の授業に記入するクラスポートフォリオをはじめ、チャペルにおいてもポートフォリオ提出を必須とした。 今後は、さらに建学の精神に日常的に触れていく機会、聖書を読む機会を予習・復習などに取り入れる工夫を行いたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては4.1ポイントであった。事象を理解する視点や考え方取得は4.1ポイント、自分なりの目標達成は3.7ポイントであった。また、他の到達度自己評価も平均3.7ポイントであった。トータルの成績の平均値は約80%以上、チャペルの感想提出率は90%以上であった。以上により、「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の世界観を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。 キリスト教学(旧約聖書)はキリスト教の導入なので、今後、キリスト教学（新約聖書）の中で、前期で学んだ知識をもとに、発展させていくような展開が必要とされる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となるキリスト教を学ぶ「必修」科目である。しかし、初めから興味を持って受講する学生はわずかであるため、キリスト教に全く興味のない学生も受講しているため、動機付けに工夫が必要であるが、総合的に全体として一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考え る。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、行動目標に沿い、学問としての旧約聖書の講義による学びの他、毎週のチャペル参加を促し、授業内で学ぶ事の出来ないキリスト教の源泉に触れるなど、内容的には妥当であったと考える。 自由記述には、複数の「楽しく学べた」との回答があり、今後も引き続き、慣れない聖書の学びへの導入として、多様な教材に触れ視野を広げながら、学生の生活に結びつける視点を大切にしたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎回のクラスポートフォリオで学生の学びの現状をつかみ、チャペルポートフォリオの提出により、学生のチャペル参加の意欲など、全体像をつかむことが出来た。 本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要であるため、わかりやすい説明を心がけた。授業の質評価に関しては(1)評価基準については4.1、(2)課題については4.3、(3)「説明は理解しやすいものだった」は4.1、授業の質評価の平均値は4.1ポイントであった。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.0、(5)学生の質問については3.9ポイントであったが、今後よりアクティブラーニングの手法を展開し、学生一人一人について把握する取り組みを行いたい。また、情報の利用に関しても、調べ学習を再開する予定である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の土台を学ぶ科目であるため、学期始めにキリスト教に関心や興味のない学生たちにも主体的に学習してもらうための工夫が必要である。受け身的に知識を得るだけではなく、学生が興味を抱いたテーマについて取り上げてディスカッションを行うことや、絵本・紙芝居の読み聞かせを学生自らが実践することなどを入れ、授業を造り上げる一員としての自覚を養うように促している。 今後は、さらなるアクティブラーニングを検討し、キリスト教教学の学びを多角的に深められるような指導をしていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	科目名称の通り、西南女学院とキリスト教との関わりに重点を置き、オムニバスで講義を行った。西南女学院の歴史的転換点においての内部での議論やその後の方向性について講義出来る方々を厳選し、キリスト教の日本への伝来から西南女学院を創立・発展させた宣教師やクリスチャンの働きについてまで8回にわたり紐解いた。宗教主任補佐のラス・ボーグ先生は本学院の歴史的研究をされており、アメリカに現存する貴重な資料をもとに、草創期の宣教師の働きについて3回にわたる講義を担当された。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の出席率は全ての講義時間において各学科で90%を超えており、出された回答は熱心にかかれ、講義の内容も十分に把握されていた。講義者により多くの画像が配信されたため、印象深い回答がほとんどであった。したがって大部分の学生の成績は優，あるいは秀であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP：この科目は総合人間科学の必須科目であり、本学の寄付行為や建学の精神、また、大学の設置趣旨の最初の項目に相当し、CP上妥当であると考え る。 DP：この科目の目標は①西南女学院の歴史を知り、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深めることができる。②設立者や宣教師たちの精神と働きを学び、「西南女学院生」としての自己形成を深めることができる。③キリスト教に基づく女子教育の意義を理解し説明できる、であり、DP1-1とDP4－1に相当しており妥当と考える。 上記より、内容的妥当性に問題はないと思われる。 なお、全学科の到達度自己評価の平均値は3.8で、自由記述からも特に問題点は見られなかった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、提出物の評価基準、学習範囲や課題、理解しやすさの平均は4.0を超えていた。大人数授業のため学生参加の機会、質疑応答の機会提供が難しいが、今後は学生が発言できる機会を積極的に設けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	大人数の対面授業ではあるが、どの学科の学生も意欲的に学ぶことができた。今後も、学生が本学の歴史や特色を十分に理解した上で、それぞれの専門科目に取り組み、西南女学院生としての自己形成の土台を築くことができるよう、内容を工夫したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学での学びの質を高めるためのスタディ・スキルズ『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』を身につけることができ、自らが積極的に課題を探索し、他者と相互に学び合う関係を築くことができることを目標としている。その集大成として、個人によるスライドを使ったプレゼンテーションをプロジェクトワークの結果として全員に披露してもらい、すべての学生が発表者の評価をGoogleフォームを使って行い、コメントなども寄せて、発表者にはその結果を分析してもらうことにしている。自学が充実しているテキストも副教材として使用した。後期には、ゲストティーチャーもお招きして、さらにバラエティに富んだ授業を展開していく予定である。特質すべき受講動機は「友人の勧め」が1名いたことであった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	A35%B42%C15%J8%で正規分布していた。去年は、A86.4%,B4.5%,C4.5%と正規分布していない成績となった。というのは、最後に回収する自学の副教材で大きな差が出ると予想していたのであるが、ほぼ全員が大変誠意のある丁寧な記述を行っていたため、差をつけることができなくなってしまったためである。Aの中では、プレゼンテーションの評価によって多少の差はあるのだが、皆それぞれにいいプレゼンテーションで、そこで大きな差をつけるには、ルーブリックを作成するにしても、大変主観的な判断となってしまう。また、ほぼ毎回復習プリントを配布して採点するのであるが、こちらもほぼ全員がとても誠意のある回答をするために、優劣がつけにくい、という状況があったからである。今年は、プレゼンの配点の中で、レジュメと振り返りレポートのルーブリックを明確にして差をつけたので優劣に差が出る結果となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	基本的なスタディスキルズを講義と自学の教材で学習したという点ではDP1は達成しており、またDP3,4においても以下に紹介する学生の自由記述の一部より達成されたと思う。「達成度自己評価」は(1)(2)(3)(9)(10)4.4(4)(5)(6)(7)4.2(8)4.6であった。去年は(1)4.8(2)4.8(3)4.7(4)4.6(5)4.6(6)4.6(7)4.7(8)4.9(9)4.7(10)4.7であったことから少し下がった。特に良かった(8)が「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目であり、私は他の授業ではこの項目で高評価を取るのが授業の内容上難しいので、この初年次セミナーにおいて、グループディスカッションや発表の場を多く設け、学生が満足に感じてくれたのであれば、嬉しいし、他の授業でももっと積極的に自由討論の時間などを設けてみようと思う。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は、(1)(2)4.0(3)(4)(5)5.0であった。去年は(1)4.8(2)4.7(3)4.7(4)4.8(5)4.6であった。「やるべきことがわかりやすい授業でした。ディスカッションを通して他の人と話したり、プレゼンで自分の意見を言うことで、他の人のことを知る機会になって楽しい授業でした。」「プレゼンを初めて試みて自信がついたのと、これから人前で話す上で気をつけるべきことや、大切なことを、プレゼンを通して学ぶことができたし、また自分で一から作ってプレゼンを仕上げて発表したいと思った。」など、授業自体とプレゼンでの学びについてたくさん成長したことをコメントしてくれる学生が多かった。また、空き時間などに使用していたMy Career Noteという教材に関して「自分の過去を振り返り、少しは就活の準備ができたと思います」「普段自分のことを考える機会がなかったので、この授業で自分の過去、未来を振り返ることができた」などと肯定的な意見があった。ただ取り組ませるだけでなく、効率よくグループワークにつなげたり、内容を指示したりと精査が必要な副教材なので私も教材研究をもっとしたいと思う。またクラスメイトの皆が楽しかった、楽しかった、などの温かい雰囲気を感じさせるコメントもあったのは、アクティブラーニングが多く生徒の自主性に任せることが多い授業なので雰囲気作り成功した証であり、安心した。
7. 総括的评价と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的评价と課題をお示しください。	この授業では最初で一回で年間目標を書いてもらう。初回の授業でそれぞれが時間をかけて決めて、記述してくれた年間目標をこちらで回収、確認してから、最後の授業で返却し、到達度を確認してもらってからまた回収した。学生には、後期の最後にまた返却するように伝えてある。その時には、1年をもう一度振り返らせて、3年後の自分に手紙を書いてもらう予定である。それを卒業式まで私がタイムカプセルに入れて持っておき返却する予定だ。学生たちには、この初年次セミナーの授業を通して、単なるスタディ・スキルズを学ぶだけでなく、大学に来る意義や、自分の目標を意識し、達成するためにはどのように学生生活を過ごせばいいのか考えてもらいたいと思う。学生は、授業中に寝ることもなく、熱心に前を向いて聞いてくれたし、こちらが出す課題には毎回とても熱心に記入し、解答してくれていた。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	管理栄養士の必修科目のとして「健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系」の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。また、健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画では教科書等の予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。 出欠アンケートで、まとめと質問を設け、学生の理解度を高めた。その結果、授業で内容を理解しようという姿勢が全授業を繰り返すに従って向上した。受講の理由は必修科目であるが96%であった。しかしながら、この科目に関心があると答えた学生が8.7%と低く、健康関連科目に関心が低いことは問題と思われ、学生の各科目に対する位置付けがどのように形成されているか、考える必要がある。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78.2±17.2点で，再試対象は0名であった。 全員が標準的レベルに達したが，理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは25名/18名（75%）であった。 目標達成できたと答えた総数は23人中20名（86%）を示した。 「達成度」は平均値が全項目で3.0-5.0の間(中央値)にあり，「授業の質の評価」も全て4.0（中央値）であった。 予習、復習の課題が少なく、授業以外での予習復習は15人(23名中)はしていない。 シラバスの情報を参考にしなかった者15名（23名中）と低かった。 欠席する者も少なく全員が積極的に受講していたが、今後、より関心を高め参加しやすい方法を考えたい。 また、教科書以外の資料はインターネットを利用し、配布やアンケートの回収もネット上で行うことができた。 自由記述の評価での記述は特筆は少なく、検討すべき評価は見当たらなかった。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性について 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めていたことから、内容的には英語学科の学生にも妥当な内容であったと考える。 ②D P, 行動目標からみでの内容的妥当性について 成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高まれば、もう少し深く進める事も出来ると考える。 ③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多い中、「学習到達度の自己評価」は20名（23人中）が達成できたと考えており、英語学科の学生に妥当な内容と考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、予習を全くしなかった者が15名（23名中）であった。 毎回授業の復習、興味関心をアンケートしたことで関心が高まっていれば幸いである。 シラバスを参考にしなかった者が15名（23名中）、授業計画を立てなかった者が9名であった。 オリエンテーションにて十分な説明をしたせいなのかシラバスの利用者は4名と少ない。 次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。 授業過程を振り返って見たとき、予習課題の提示などで改善を図りたい。 以上から、毎回のねらいを具体的に提示し、 毎時間に、授業の内容について、数問の問題を自作させた。 若干の復習と理解のポイントを意識できたかもしれない。 授業評価から、学生の意見を取り入れ、更なる改善を試みたいと思う。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学期の始講と最終講に、体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果を体感し把握させた。 ②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。 ③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターで自己の運動量を把握させ、運動の理解と意欲を喚起した。 ④1および3について毎時間記録と評価を行い、学期末に集計して実習期間全体の自己評価を行い、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の自覚と運動量の関係が理解できるように努めた。 ⑤チームスポーツでは、入学直後であることを考慮し、チームが固定的にならないよう種目が変わる毎にメンバーを替え、可能な限り多くの人とコミュニケーションが取れるようにした。チームではミーティングを試合前後に行わせ、ゲーム戦略立案と実行方法、チーム内での個人の行動や役割のポジティブなあり方を意識した行動実行を促した。また、試合後には必ず良い点や悪い点、次の試合に向けての改善点(課題)などをチームミーティング後、記録用紙にまとめ意識化し、チームで活動するための必要な要因を考えさせ、意識させた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76点（SD10.1）であり，再試対象は1名であった。ほぼ平均点は標準的レベルに達したが，理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達した者は9名（14名中64％）と予想以上に多かった。 達成度に関する自己評価では目標達成できたと答えた総数は10人(11人中)で高値を示した。 目標別に見ると，「知識が獲得できたと思う」は11名，「事象理解の視点を得た」と思う者は11名，「課題検討力」を得たと答えた者11名，「判断力を得た」10名，「学習意欲が得られた」10名，「必要技能を得た」10名，「表現力の向上」11名，「倫理規範獲得」10名，「職業選択の参考」9名と高い自己評価を持たすことができた。 欠席する者少なく全員が積極的に受講していた。今後，関心の数字を高めるような方法を考えたい。また，教科書以外の資料をインターネットを利用し，配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。 意欲関心を高めるために，種目やその歴史背景なども説明して，もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では，知識理解の観点，思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは，学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて，ルーブリックで示すだけでなく，各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③受講動機で内容に関心がある学生が45.5%で、単位獲得目的の学生が36.4%である。「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は100%が達成できたと考えており、英語学科の学生に妥当な内容であったと考える。 以上から、内容的妥当性と思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
共生社会とジェンダー	3	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ジェンダーに関しては、身近な問題でありながら意識されていない場合が多いことから、アクティブラーニングを実施するにあたって、漫画やアニメ、ネット上の映像、ニュースや映画の予告、CMなどを新しい動画を教材として準備した。学生にもその旨シラバスに記載し、身近なテーマから授業に関心を持てるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価は、最終授業の中でジェンダーを原因とする格差が解消した未来の共生社会を新聞記事として表現し、これに対し「ジェンダーの視点」を理解し、当事者性のある課題をどこまで社会的解決に結びつけるかを採点の基準とした。新聞作成はグループの作業となったので、個別の評価は各回の授業の感想において、現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題に関心を持ち、自分の考えを述べることのできるかを加えた。ほとんどの学生がジェンダーを自分の問題としてとらえる力は身につけていたが、これまでの思い込みから脱却の難しい学生も見受けられた。新聞作成においては、グループで個性が際立ち、文章力、情報収集力など特徴が異なるため、ジェンダーをめぐる課題を社会構造と結び付けられているか、意欲関心が表現されているかを評価した。基本的に、テーマに関心の高い学生が集まっており、基準には到達していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	新聞記事として表現された内容から、ジェンダーをめぐる現状に社会的解決が必要であること、それを実現するために求められる施策などへの理解は達成できたといえる。また、思考判断や意欲関心についても達成されており、おおむね内容的妥当性は認められる。ただし、関心の高いテーマ（例えばLGBTなど）へは考察が深いが、より多様な人々との共生をジェンダーの視点から総合的に捉える力が不十分な学生も見受けられた。ただ、グループ討議などで他者の意見を聞くことで、おおむね新たな気づきにつながっていたと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業を対面で実施し、グループ討議がより活発に行われた。自分自身の意見を述べることや他者の意見を聴くことに、楽しさを見出していた。特に、学科を超えてグループを作ったので、通常では話せない学生同士で思わず深い話ができただった場合もあった。一方的な講義より、理解が深まったものと思われる。毎回、発表する担当者を決めて、またグループで発表内容を検討するなどして、主体的な学びの場となった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	ジェンダーや共生社会という概念については、もともと知識のある学生と全く初めて接する学生に分かれていたが、最終的には基礎的な知識を身につけたものと思われる。身近な問題を政治や経済と関連する理解へと結びつけることは、継続的な課題である。最終回で新聞作成をした。昨年度は授業評価アンケートで作成時間が足りないという意見があったが、今年度は、他のグループの作品を見る時間も確保した。他のグループに対しても感想を提出させ、より分析的に振り返りができたようだ。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人文学入門	1	前期	必修	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講生が2学科にまたがっていて、興味関心が異なる可能性が大きいため、両学科の学生が興味関心を抱くようなテーマを設定するように担当教員にお願いした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「不可」の評価を受けた受講生がいなかった。何人もの担当教員から、受講生のまじめに課題に取り組む姿勢について報告があった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。人文学は広い裾野を持つ学問であり、それを複数の教員が担当をすることで学生に分かりやすく伝えることができている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生のコメントを読むと、自宅での学習時間が確保できていないことが伺えた。一方で、授業に参加することで精一杯と感じている学生も数多くいた。次年度は、無理のない範囲で学習内容が深まるような課題を担当者が出すように指示したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講生はこの授業に満足しているようであった。しかしさらに授業を改善するために、以下のようなことを実施したい。担当者間の事前の情報交換、気になる学生が出た場合の情報共有、授業時や宿題として出す課題の共有。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	松田 憲

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こころと人間	2	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度と同様に、対面形式で講義を行った。講義では、実験デモや動画視聴を多用することで、学生の受講意欲と理解度の向上を試みた。 講義配布資料を書き込み式にすることで内容理解を促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	配布資料をclassroom上でpdfでも配布したことで，今年度は講義に出席せずにレポートだけを提出する学生が例年以上に多く，今年度の学期末試験の平均点が低かった原因と考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講生は講義内容におおむね満足していると判断できる。
---	-----------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度から引き続き対面形式で講義を行っているが、少なくとも出席していた受講生の反応は非常に分かりやすく、授業への反映が行いやすかった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	講義に出席していた学生からは良い評価を得られたと思う。
------------------------------	------------------------------------

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学	1	前期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目ではあるが、受講した学生の学科（英語、観光文化）にとってはあまり馴染みのない内容であり、学生たちにとってもイメージしにくい科目であることは否めない。そのため日々の学生の生活と法が随所で関係していることを説明し、具体的事例を盛り込みながら授業を行うことを心掛けた。 ②馴染みのない専門用語の学習や理論考察が必要なため、毎回配るレジュメの最後に必ず本日の講義のポイントとなる部分をまとめた問題を入れ、学生に解かせることで知識理解を定着させるようにした。 ③8コマ目に中間テストを実施し、学生たちの学習状況を確認するようにした。同時に学生たちに復習の必要性を認識させた。 ④近年、導入された裁判員制度についての広報映画を見せ、学生たちも将来参加する可能性のある裁判員制度への理解とその重要性を認識させた。また現代的課題でもある裁判員制度について学生たちに調べさせ、その是非についての意見を書かせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、英語学科で83.88点、観光文化学科で82.54点であり、全体的平均値は83.21点であった。80点を理想的レベルとして試験を作成したが、それぞれのクラスの平均値がそれに達したことは、知識理解の面からみても目標は達成されたといえる。追再試の対象となる学生も1人も出ることなく、全員が本学科の単位を取得することができた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は選択科目ではあるが、一般教育科目の一つであり、DP1に関わるものである。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 到達度自己評価において「自分なりの目標を達成した」と回答した学生の平均値は、英語学科、観光文化学科ともに平均4.1以上であった。「受講動機」の回答をみる限り、多くの学生が最初から本科目に関心があり受講したというわけではないようである。それでも授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として「気になったことを調べたりした」「プリントを見直した」という回答があった。授業を通して本学科の内容に関心を持ち始めた学生がいたことは喜ばしいことであり、今後ももっと高めていきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「法学」というと世間一般的に「難しいもの」ととらえられがちな科目であるが、授業評価において「説明がわかりやすかった」という回答が、英語学科で平均値4.3、観光文化学科で平均値4.1と、比較的高かった。これは毎回の講義の最後に重要なポイントと覚えるべき用語や項目をレジュメにまとめたことがかなり効果的であったと考えられる。裁判員制度の映像を用いて各グループに分かれて討論させ、協力して判決文を記述させる講義は、他と比べても学生の意欲が高く、さまざまな意見を拝見することができた。映像をつかった講義は効果的であったため、今後他の講義でも用いていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本校において「法学」の講義の担当は初めてのことであったため、授業の進め方やアクティブラーニング等の面においていろいろと試行錯誤をしてみた。結果的に成績評価や授業満足度の平均値がいずれもこちらの目標値を超えたことは、本科目のDP「知識理解」の面を達成することができたといえる。先述した模擬裁判や映像をつかった講義は好評であったため、今後も活用していきたい。 課題としては復習時間のさらなる向上が挙げられる。この点に関しては毎回配布するレジュメの「今日のまとめ」を宿題形式として自宅で記述させるといった試みを実施し、学生の方から授業に関連する予習復習を意識的に取り組めるよう促していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 中国語入門の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の53.3%を除いて、②「資格取得に必要である」は13.3%で③「関心のある内容である」は60.0%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数が17名で、語学の初級としては妥当と思います。学生一人一人に対して指導ができます。 3. 「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が4.1の数値であることから学生たちとの交流は十分に取れたことが伺えます。今後の授業においては、このままの状態を維持し続けて、学生間の会話ができる場面や機会をもっと増やしていくように工夫したい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. A評価は10名、B評価は4名、C評価は1名E評価は2名であり、最終的な成績の平均値は「86.0点」であった。標準的レベルを超えて、理想的レベル（定期試験および平常点の総合として80点以上）に達していた。 2. （DP-1）の知識理解、（DP-5）の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。 4. 自発的学習については、中国語の動画アプリやネットで関心のある内容を自ら調べて学習することが評価するべきです。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、①「自分なりの目標を達成した」は平均点3.7点、②「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.5点、③「専門分野について、深めたい意欲を持つことができる」は4.3点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2. 「授業の量」については授業外の学習は週に2回ほどが半数以上です。このままの状態を維持し続けてほしいです。 3. 「図書館やインターネット等の利用」は、授業学習に関する内容はあまり利用しないことが見られたことから、授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることをもっと学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	1. 中国語入門は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身につけられるよう、養成していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	韓 京我

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①今回の受講動機をみると「関心のある内容である」60.0%、「単位数を確保する」53.3%との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組みたい。 ②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。その項目から受講動機、韓国語学習経験、知りたい事を把握した。③各回に文字読み取りテスト、単語テスト、挨拶テスト、自己紹介テスト、会話練習を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。④昨年度に示した改選計画では、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由に「どのようなことをしたらいいか分からなかったから」もあったため、これについて復習項目と次回講義の予告をする事で自習を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は87.8点であり、再試験対象は1名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは、13名だった。目標別に見ると、知識理解に関しては90%、機能表現は91.3%であった。知識理解では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また機能表現では、文字読み取りテスト、挨拶テストと自己紹介テストの実施で、「知識を新たに得ることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で高い満足度が見られ、講義の重点を置いている点と学生の満足度が一致する結果が得られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的に妥当性があると考えられる。②DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。③まとめ以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。また韓国語の発表の時間や会話の機会などコミュニケーションを図れるよう努めた。最終テストでは全員の平均点が高く、語学の基礎的レベルには十分達したと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語表現法	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	自分の考えを相手に伝えたつもりが、つमりのみに満足して、本来は伝わっていないというケースが多々見受けられることの課題点、および注意点について認識してもらうための講義に力を注いだ。したがって、読む、聞く、書く、話すという4つの構成上の意義について学ぶことを主眼としているのでこのうちの一つが欠けても十分な表現者としての完成はあり得ないことを例題を持って説明し、自らも作文することを講義中に行った。大切なことは、単なる技術的なテクニックだけでは無く、ものの見方、受け取り方はまともにできているのか否か、バランスの取れた人格であるのか、そういったことすべてが自身の表現としてあらわれることの認識が明確になっているのかを、自問自答しながら、表現することの重要性を説いた。講義中にマンツーマンで一人一人の指導も行ったが、その間、他の学生が順番を待っている間、他の課題文を書くように勧めながら、同時進行的な講義も行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	注意を受けたところは着実に理解し訂正し、同じ間違いをしないように努めている姿勢は見受けられた。総合評価としては、大体80パーセントまでは伸びているようであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の位置づけから見た妥当性については、80パーセントは活かされていると思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	改善策としては、私個人がただ一方的に講義するだけでなく、グループワーク的な講義体制にして表現の方法を学生同士で分かち合うことも大切なような気がする。そのような工夫も今の学生には必要であると思われる。他学生から学ぶという姿勢が意欲を起こす原動力になると思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	添削とマンツーマン指導を出来る限り増やすこと、また個別指導の徹底、そういったことを、細やかにしていかなければならないと痛感した次第である。 日本語表現という科目の特質は、とにかく自身の力で書く事だが、自身の弱点を知ることとそれを訂正してより良い表現に慣れることが大切であるので、そこを、学生にしっかり伝授できればと考えている。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	高木 駿

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	Microsoft Officeについても触れつつ、通常のメディア関連授業ではあまり扱わないグーグルドキュメントやスプレッドシートなどクラウドベースのアプリケーションを多用する授業構成にした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	毎回の課題に加えて、試験課題についても、指示通りこなす学生が多く、課題とした技術は身についたものと判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	非常勤のため全体を把握しておらず、発言する身分にない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	課題の量をもう少し増やしてもよかったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	全体として情報量がやや少なかったと判断するので、次年度は、課題を増やすとともに、特定のレベルにある者への特別課題なども用意したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	高校までの学習状況で、パソコンの扱いに慣れている学生とそうでない学生が混在しているため、課題を平易なものから高度なものまで段階的に用意し、高度な課題の一部は上級者のみを対象としたオプション扱いとした。全授業回のうち、前半は基礎技術の習得を行い、後半は実践的な取り組みとすることで、学習意欲の継続と学習内容に対する興味喚起に努めた。 情報関連の知識・技術が今後の学生生活や就職後に必須であることを理解できるよう、課題の内容を工夫した。 また、後半では、各自が目指す職業の社会的意義や多様な活動についての情報収集を通し、職業そのものおよび身につけておくべき情報技術について、理解を深め実感を得られるよう学習プロセスをデザインした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。 授業アンケートの到達度自己評価の項目のうち、本科目に特に関係する（2）知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の結果は良好であった。 授業外の課題を行っている学生は少ないが、これは授業の課題量が多く、一部は宿題となるため、授業外の課題を行う必要性は少ないと考えている。実際、自由記述に「課題で十分」という記述が多い。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、全ての学科に存在する学科横断的科目であり、在学中のレポート作成や発表など様々な場面で必要となる。さらには、就職後の実務において、全学科の学生が要求される内容である。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけではなく能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であり、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は少ないが、授業を通して理解されるよう努めている。実際、到達度自己評価の項目のうち、（7）自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、の結果は良好であった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	後半の能動学習を昨年度までのグループワークではなく各個人の一人プロジェクトとしておこない、プレゼンテーションも個人単位で行った結果、プレゼンテーションのクオリティーが向上した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	若菜 啓孝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報の理解と表現	2	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	他学科と合同で行ったものである。当初のシラバスとは異なり、教職に関連した科目であることから、教材作成に必要な知識・技能の修得を頭において授業展開している。共通の課題制作としてオープンキャンパス用PRコンテンツ（動画・ポスター・リーフレット・AR）を設定し、画像・映像・音声の基本的事項の解説、そのための制作上活用するソフトウェアの代表的なものを紹介するなどで展開するようにし、学生らがスムーズに操作できるように準備にかなりの時間を費やした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	どちらともいえない				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の差異は、学生ら提出した制作物の作成時間に比例したものとなった。特に、教えあうグループの関心に大きく左右された制作物が多かった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	高学年では、ゼミなどでのプレゼンやポスター、パンフレット作成などもあるため、その基本的な事項の内容であったと思う。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	評価は発表(口頭、プレゼンテーション)がメインとなっていたが、Youtubeでの発信にて代替えし、レポート点で多くを評価するなど制作時間に多くを費やした。したがって、基本的な事項を講義・演習を行い、その後の拡張は学生に委ねる形式とした。学生の好奇心・積極性の違いで制作物の差が生じた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今回、オープンキャンパス用コンテンツ、ARを用いたコンテスト作品の制作、本授業の制作過程をまとめた動画制作など今後にも有用なコンテンツ制作を行った。学生の中には、実際のオープンキャンパス用のポスターや学科紹介動画に採用されるなど、学科の教員とのコミュニケーションを密に行い制作したも数名いて、将来、顧客や周辺の要望をとりいれたものを作成することができるため、まずまずの授業計画・進行であったと思われる。 課題としては、オンデマンド型の授業の有効活用・実施回の設定があげられる。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の技と文化	3	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	まずは全学科の情報を記します。大学の5学科からの受講生（79名）がいる。学科別履修者数と授業評価回答者数（）を示す。看護16名（8）、福祉：32名（9）、栄養：7名（3）、英語：13名（3）、観光文化：10名（1）。昨年度から外部講師には授業1週間前には、少なくとも30分は事前学習が必要な教材を公開できるように依頼した。5名の外部講師は、動画、文字資料の形式で課題を出してくれた。英語学科では、4、学習量の評価の（1）授業前の予習時間では、④4、5回と⑤6回が2名で最多だった。事前学習課題を出した成果があったと言える。シラバスは三分の二が参考にしたとしている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最初に5学科の本試験の成績（％）を示す。看護：A75、B13、E6、J6。福祉：A50、B41、D3、J（放棄）2。栄養：A43、E14、J43。英語：A92、B8。観光文化：A30、B20、D10、E10、J30。なお、看護学科では追試合格者一名がいる。評価は授業最後に出すコメント（レポート）（40％）、レポート外の提出物がPPTでの提出物（20％）、発表（口頭、プレゼンテーション）（20％）、その他はポスターセッション発表（20％）でした。開講四年目ですが、最初の二年間はレポート100％としており、不合格者が4割出る学科もありました。それから次第に評価項目を増やしていき、より単位を取りやすくなってきています。授業評価の6、図書館利用の三項目では、英語学科学生は、三つのどれかを利用している。これは英語学科の教員にも問いあわせましたが、英語学科の専門教育の特性を反映していると思います。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価の10項目の平均を5学科別に%でみる。看護：2.9、福祉：3.07、栄養：3.82、英語：4.74、観光文化：3.2となる。3年前期の選択科目であり、あくまで総合人間科学の科目であるところが肝要と考える。学生の質問は「北九州の技と文化」でのレポートの形式に集中する傾向があり、なぜ専門の内容に書いてはいけないのかということが、よく問われた。対象ではない、DP2（思考判断）、5（技能表現）も、学生からの提出物（コメント、レポート）の評価対象とせざるを得ないところに、DP配置についてはやや苦しいところがある。しかしながら、論理的思考や表現技能を3年になるまでには鍛えられていると期待したい時期に配置されている授業であり、カリキュラムマップ上の位置づけは妥当だと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の5項目の平均を5学科別に%でみる。看護：3.92、福祉：3.12、栄養：2.68、英語：3.54、観光文化：3.42となる。最も低い項目は5学科中4学科で（3）説明は理解しやすいものであったです。5学科の平均値を示すと、看護：2.9、福祉：2.9、栄養：3.3、英語：4.4、観光文化：2である。これは全体的には厳しい数字であるが、英語学科だけは高い。シラバスに基づいて説明をしていくしかありませんので、より丁寧な説明で臨みたいと思います。外部講師の方には、シラバスを事前に確認していただき、基本を押さえて、ゆっくり話をさせていただくように依頼をしています。今後ともこの要領で臨みますが、今回の評価結果も取り入れたいと思います。（3）説明は理解しやすいものであったについては、当授業では、総まとめ役の専任教員と、外部講師5名の両方に関わりますので、わかりやすい説明をしたいと思います。専任教員としましては、担当教員への意見「授業内と授業終わってからの二重で要約や感想を出さないといけなかったことは、疑問に思いました」と英語学科の一人からありました。他学科からも同様の指摘が一人ありましたので、これは改善します。4. 学習量の評価で（4）授業の課題以外に具体的に組み込んだ学習として、「授業内で分からなかったことを深く調べてみた（1名）」がありました。そこには学びの姿勢がうかがえました。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最も良い成績（A, Bで100%）した。5学科の学生に同じ授業をしても、学科によっては評価の差が大きく出ます。英語学科では、到達度の自己評価、授業の質評価の両方共、5学科中の最高でした。ポスターセッションでは英語学科の学生は抜群のプレゼンテーションをしてくれました。総括的評価としては申し分ないものと考えます。79名を相手にするのであり、一斉指導が中心にはなりますが、オフィスアワー等を活用して、個別の指導をするなどの方策を授業の内外でとる必要があると考えます。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を6団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということを、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させ、次の時間に必ずフィードバックをした。 なお、今年度も複数学科合同講義で、多人数かつ少々リアルに欠けるところもあったかもしれないが、学生たちのリアクションペーパーから、また外部講師の先生方の力強いご協力により、十分な教育の提供ができたと思われた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、とにかく楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考えられる。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師（ゲストスピーカー）の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当に関しては問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、今年度は対面にて、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライフイベントとキャリア支援	2	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	例年「単位数を確保する」という受講動機が多い科目となっており、講義開始時には講義内容に対する関心が低い学生も多いと見られる。そういった学生にも、結果的に受講してよかったと感じてもらえるように毎年内容を工夫している。今年度は、「関心のある内容である」という受講動機も比較的多かったことから、当科目を受講する意義が伝わるような内容のシラバスにできていたと考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業評価アンケートの到達度自己評価項目（1）（9）（10）などにおいて、概ね高い評価となっていることから、本科目の目的は達成されているものと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	レポート課題の中で、就職や人生設計に役立つ知識が得られたとのコメントが多く見られた。従って、キャリア科目として妥当な内容となっていると考えられている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ゲスト講師の講演を取り入れるなどの工夫をすることで、多くの学生が集中して受講できていたと感じている。講義時間外の自己学習については、あまり時間を割いていない学生が多いが、本科目の位置づけを鑑みたときに、専門科目の課題が優先されているのは問題ないと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合的にみて、当科目の目的は達成できていると感じている。来年度以降も社会情勢を踏まえながら、学生に有益な知識を提供できるよう努めたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践英語音声学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「実践英語音声学Ⅰ」は、英語学科1年生の必修科目である。大学で初めて音声学を学ぶという学生がほとんどであるため、丁寧にわかりやすい授業を心掛けるとともに、日常英会話やリスニングなどでも実践的に活用できる専門知識とスキルを身につけられるよう指導を心掛けた。 学生たちは皆、教師の口元を見ながら発音練習を積極的に行ない、授業への参加態度はとても良い取り組み状況であった。受講学生のコメントには「先生の説明はとても理解しやすく、楽しかったです。特に、口元を見せて口の動きを確認しやすいように口を大きく動かして説明して下さったり、聞き取りやすいようにゆっくり発音し、違いがわかるようにお手本の単語を聞かせて下さったりしたので、苦手をほとんど作ることなく授業を受けることが出来ました。また、解答を間違っても完全に否定するのではなく、何度も言い直すチャンスを与えてくださったので、間違えることを怖がることなく発表することも出来ました。」という意見があった。今後も、学生の実践力が身につく授業を工夫して進めていきたい。 後期の実践英語音声学Ⅱへ続く科目であるため、さらに英語の発音やリズム、表現力を強化し、よりわかりやすく国際的に伝わる英語音声コミュニケーション力を高める指導を行なっていきたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.5、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.6、「説明は理解しやすい物であった」は4.5、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.4、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.5と概ね良好であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.5と概ね良好であった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力に加え、発話力や音声認識力の向上に尽力する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
グラマー・コンポジションⅠ	1	前期	必修	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 高等学校までの履修科目や習熟の状況については、学生ごとに大きな隔たりがあるため、既習事項と思われるものについてもわかりやすく解説しながら授業を進めることに注意した。 ② この科目は英語学科における今後のさまざまな専門科目の基礎固めとしての位置付けの必修科目であるが、受講動機について「必修科目である」という項目だけではなく、「関心のある内容である」という項目を選んだ学生が2割以上いた。高等学校までの学びを振り返りながら新しく学んでいることを整理することができるような解説に心がけた。 ③ 予習の習慣がつくように、予習としてするべきことを明確に指示し、毎回予習してきたことについて確認する機会を設けた。 ④ 学生が復習をし、自分の学修の成果を確認できるように、毎時間前時の授業について的小テストを実施した。 ⑤ 毎回課題の確認をし、不十分な場合は個別に指導をした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の再試対象者は26名中2名であった。ほとんどの学生が標準的レベルに達し、理想的レベルに達した学生も多くいたが、一方で再試対象とならざるを得ない学生もいた。到達度自己評価については、各項目について「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答していた学生が1名程度いたが、ほとんどの学生が肯定的に回答しており、各項目の平均値は3.9から4.3で、中央値は4.0から5.0であった。学生の学習量の確保のために、さまざまな工夫をし、学生の課題の提出の様子や小テストの結果からほとんどの学生が十分な学習時間を確保していたと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPカリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は「英語スキル科目」であり、その中でも高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。 "
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、いくつかの項目について「かなりそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と答えている学生が1名いたが、ほとんどの学生が各項目に対して「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、ほぼ目標は達成できたのではないかと考える。科目の特性上、学生が自分の意見をまとめたり話し合ったりする場面は作りにくい、学生からの質問に対応する時間は毎時間確保しており、全体では質問しにくい学生のためには授業後の時間に質問を受け付けたり、メールで対応するなど工夫したが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目について1名が「全くそうでないと思う」と回答した。毎回予習や復習が必要な授業の形態をとり、毎回具体的な指示を出していたが、30分以上の予習や復習の時間をとらなかったものが6名いた。宿題を提出しない学生はほとんどおらず、宿題を提出するにはたとえ他の人の答えを写したとしても30分程度はかかると思うので、設問を勘違いしている可能性も考えられる。課題に取り組みやすいよう解説の資料を配布するなどしたが、それでも取り組みにくい部分があったことも考えられるので、授業の中でも課題に取り組みやすいようにさらに説明を加えることにしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	小テストや試験の成績から、基礎的知識の定着については、概ね達成できた。30分以上の予習や復習の時間をとらなかった学生が6、7名いたが、前述の通り設問を勘違いしている学生がいたのではないかと考える。予習や復習については、毎回具体的に指示したり、課題を提出させたりするなどに加え、学生が学修しやすいように、課題の説明を書いた資料を用意し、ほとんどの学生は毎回課題を提出していたので、学修の習慣ができたと考えられる。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英検演習Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は英検対策を通して各自の英語力（特にreading、listening、writing）を向上させることを目的とした授業である。また、個々で目標を立てそれを達成するための計画を立て主体的に学習を進める習慣を身につけることができるようサポートすることを大切にしたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各自が目標とする級が違うため、受講者それぞれが立てた目標は異なっている。そのような中、7割の学生は自分なりの目標を達成したと実感できたと回答している。3割の学生はあまり達成できたという実感が持てていない。学習量の自己評価を見ても非常に力を入れて学習をした学生と、取り組みが不十分な学生とかなり差があることがわかる。よって全体を通しての達成状況は「どちらともいえない」とした。知識理解・意欲に関しては約9割の学生が達成できたと回答していることから「やや達成された」と評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、入学してすぐに具体的な資格取得を目指し学習をスタートする入門科目である。学習到達度の自己評価のバラつきを見ると、この位置づけからみた内容の妥当性について、改善が必要であると感じている。入学時にすでに学生たちの英検保有級が異なっていることもあり、各自が自分の目標に向かって効率的に勉強ができるような内容に改善する必要がある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価で、平均4.3～4.5となっており、特に(1)評価基準についての情報が4.3と低い。授業が進む中で中間時点での振り返りや要望を聞き、授業の進め方を少し変えたりしたため、混乱してしまったことが原因として考えられる。次年度に向けての改善として、学生たちが無理なくコンスタントに課題に取り組めるように、個々の学生とのコミュニケーションをGoogle Classroomを使い促進しようと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	自主学習が主となる本科目では、学生自身の教育目標の達成状況にバラツキがでている。授業としては、英語や解き方に関する知識や上を目指す意欲を向上させる取り組みを重点的に行ったつもりであるが、一人一人のニーズをしっかりと掴むことができておらず、十分にサポートをすることができたとは言えない。次年度は個の主体性をどのようにサポートするか工夫が必要である。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英検演習Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業は英検準1級合格を目指した資格対策の授業である。問題を解いて解説するだけでなく、リーディングやリスニングの勉強の仕方や方略を学ぶ機会となるよう心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	到達度自己評価では、全員が「自分なりの目標を達成した」という問いに対し、「かなりそうだと思う」もしくは「わりにそうだと思う」と回答しており、知識理解、意欲感心に関しても平均値4.8となっている。準一級を目指す意欲の高い受講生たちだったので、授業外での学習も自分で計画を立て行っていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、全員が「関心のある内容である」と答えており、「単位確保」に次いで「資格取得に必要である」と回答している。資格取得に必要であると考えていない学生であっても関心が高い内容であることがわかる。それゆえ、英語学科の学びの位置づけとして内容的に妥当であるといえる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価に対する回答を見ると(1)(2)(3)ともに4.9である。(5)の質問を受け付け答える機会が作られていたに関しては、自分では質問しやすい雰囲気を作って声掛けもしていたつもりであったが、平均値は4.7となっている。この点は次年度はさらに質問が出しやすくなるように口頭だけでなくGoogle Classroomを活用したりして改善したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目的意識が明確な受講生が履修する科目であるため、それぞれが自己目標を立て、達成に向けて計画を立てるように指導した。学生たちの達成度評価が比較的高いのはそのためであると思う。次年度は、全員がわからないところを質問しやすいように、授業内で口頭で聞くだけでなく、他の手段も使いたいと思う。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーションⅠ	2	前期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The course is all built around a series of projects that the students work through while learning new skills. This allows the students to have more control over their workflow and thus they are able to keep moving ahead at a similar pace. For this semester, we focused as always on the media itself, looking at design and usability. The students worked through a series of lesson modules to achieve the goals of the course. In semester 2 we will focus on content and delivery using the skills learned in semester 1.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	We ran the class using a semi on-demand style, mixing skills lectures with self-guided task work. The course was divided into skill-based activities that had to be completed and graded before being able to move to the next stage. This ensured that all students remained on target to complete the work. This generally worked well. This year, both A & B classes worked exceptionally well and achieved almost identical gradings. Class A achieved an average grade of 87.00% while Class B achieved 89.40%. Lowest score was 72%, highest was 93%, with a standard deviation of just 4.51. No students from either class failed the course because of attendance or work issues.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Once again, knowledge and understanding (DP1) of the design and implementation of good presentations consistently improved. The nature of the work meant they needed to use critical thinking skills to move ahead, so DP5 was achieved. And their positive attitudes fulfilled DP4. All in all, the goals of all three DPs were achieved in equal measure in both classes.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	For next year, the plan is for the content and coursework to remain largely the same as for this year as this program worked well for most students and good results were achieved. I will also be looking at creating a workbook for students to use to record what they learn during the course.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Transparency is a key part of the assessment process for this courseThe rubrics we created for this course worked very well and enabled the students to see both grades and feedback in realtime. We will continue with this system next year, though will continue adding more content to the rubrics. This will give students a clearer picture of their weaknesses and strengths.

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーションⅢ	3	前期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The aim of this course was for students to develop the ability to explain elements of Japanese society, culture and history in English without the need to rely on any support prompts. The first steps towards achieving this were for students to gain necessary background knowledge themselves, and then to learn how to naturally explain this in English. Here, I made the decision to continue using the bilingual reference book I started using last year, which seemed to work well. With an increase in the number of students taking the course, and as I wanted to ensure students could transfer what they were learning to other contexts, in other words to be able to make use of the language learned to explain related situations, I experimented with a range of different types of activities to achieve this aim, while also trying to maintain student motivation. While teaching the course I felt that this went well overall, and this was backed up by the student survey results. Another key element of this course was regular oral assessment, which seemed to help with structuring and supporting students' out of class learning.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Overall the vast majority of students demonstrated that they had achieved the learning aims of the course through the various assessment pieces and weekly classroom practice. It was clear that students' subject matter knowledge, and ability to express this in English, was becoming more and more sophisticated throughout the course. For this course two separate classes were held in order to cater for the different English proficiency levels of registered students. Differences in student performance and grades are partially related to their underlying English proficiency levels and academic skills. However, despite this, overall each student strived to improve in their own unique and individual ways, and each student showed a progressively maturing level of interest in the content being covered, although of course to varying levels.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	There seems to be no particular problems regarding this.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The larger class size compared to last year made it difficult at times to provide individualized feedback and assistance, however I tried to deal with this as best as possible by experimenting with different activity types, and setting additional homework as necessary. I was fortunate to be able to offer two classes divided by proficiency level. Although the same content was taught to each class, the way this content was delivered, and the depth I could go into, differed greatly between classes. It may be difficult to achieve the same results if it were to become necessary to hold just one class, being taken by students with vastly different English proficiency levels and learning aims.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Overall I feel that the class went well, and that I could make improvements from last year, at the same time dealing with the increase in student numbers. One thing I am concerned about is the difficulty with conducting regular oral assessments with larger class numbers. If the class size were to increase anymore compared to this year, I would have to rethink the current way that I am conducting the oral assessments.

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションⅠ	2	前期	必修	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The course aim is to help students develop discussion skills and to be able to clearly present and explain their opinions about the topics under study. Students completed the required work, and were able to work through the course satisfactorily. Student attendance was good, and the students completed all the required work in a timely fashion. Overall they displayed good understanding and ability to work with the course content.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment for the course was based around students' capacity to engage in discussion activities, showing a willingness to express their opinions, work with others to reach consensus on discussion points, and show the ability to reflect critically on ideas of others, either verbally or through written exercises. Generally, the students worked to achieve this. The level of cooperation in the class was high, and all students made efforts to express their opinions in English, and to ask for clarification and assistance if they were facing problems. Some areas were difficult, and further focus and development of skills are required, such as the ability to apply critical thinking to the issues under study. All students passed the class, with an average final grade of 77 (SD = 10, N = 24) and median = 79. Six students received marks below 70 for various reasons such as missing assessment or poor class performance. 50% of the class received a grade of over 80, with five students scoring 90 points or higher for the final grade. These results are comparable to previous years.					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students were focussed on the course content and generally tried to contribute to the class discussions in a serious and engaged manner. Overall they made good progress, and appeared to enjoy the class, and taking part in the required discussion and presentation activities.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	As well as trying to get the students to take part in discussion activities, we worked a lot on having students present their ideas in the form of short presentations. The students were able to use the target language to present their opinions in a clear and coherent manner, were willing to share their opinions with their classmates, and showed general understanding and ability to work with the target language.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	I believe we will be using the same textbook and using the same course format next year. Balancing the time in a class to give students enough time to prepare, practice, and express their opinions equally is an ongoing challenge. It is hoped that class numbers will be able to be kept at a reasonable level to enable all students enough time to work on the class material and share their ideas in class.

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プロジェクトⅠ	3	前期	必修	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	As the name suggests, this course is taught using a project-based approach to learning. The course was built around four 3-week topic modules (Health, Society & Relationships, Businesses and SDGs, Kitakyushu & the Environment) as well as a personal project. The students were taught strategies for developing projects and how to research them. Most of the class was completed using groupwork, with a presentation or sharing component at the end of each module. In both A and B classes, exceptional work was completed with the presentations of a quality I haven't seen before.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	Work completion and attendance were not an issue in this class, and all students achieved good passing grades. This was my first year to teach this class, so I don't know how this compares to other years. However, this felt like in extremely capable cohort, so I wouldn't be surprised if grades were higher than normal.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	As the students researched extensively to complete the tasks in this class, and used English proficiently, DP1 was achieved. With the groupwork they completed and the discussion held as part of the program, they did well in DP2. DP3, which deals with interest and motivation, was easily cleared with this extremely capable cohort. Finally, the extensive amount of presenting and sharing that took place—and the skills that entailed—meant that DP5 was also cleared.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The program as it stands requires little in the way of adjustment for next year. However, I would like to include a greater amount of student planning in the program as the current format is more teacher-led than it should be. This is an important part of the skills they should be refining in this class.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Assessment in this class is both transparent and negotiable. For each module, students were graded on the work they completed. Grades were decided from both the teacher's and other students' feedback, and were shared with the students. Students were always given the opportunity to negotiate their grades for any project, and in two cases, the students successfully did this. This system worked well, so I see no need to change the assessment format for next year.

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
リーディング I	1	前期	必修	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The aim of this course was to help students improve their reading. During the scheduled class time this involved doing reading and vocabulary activities. Outside of class, students were expected to engage in regular reading homework, with the goal being to read around 150,000 words over 15 weeks. The XReading virtual library and LMS was used, along with the reading resources in the university library, to provide students with reading material and grade out-of-class progress. Most students engaged in the class seriously, and kept up with the required work. The class is quite challenging, but students generally accepted this worked to complete the requirements.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Class assessment was heavily weighted towards the outside class reading component of the course (60%) with the final test contributing 20%, and some small projects and class performance making up the remainder of the grade. Students received weekly feedback on their reading progress, along with guidance and opportunities to improve their performance if they seemed at risk of failing. As with past years, one challenge is with getting students to do the outside reading regularly due to numerous competing demands for their time. Three students failed to complete the course. For the 25 students who completed the course, the average grade was 83 (sd = 13) and a median of 90. This is comparable to previous years. Nine students received a grade below 80 due to failing to have done the required reading consistently each week.					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The level of participation and commitment from students was generally high, and a clear understanding and commitment towards doing the required out-of-class reading necessary to successfully complete the course. The students who focused on the classwork and managed to meet their regular reading goals all reported a sense of satisfaction with developments in their reading speed and understanding.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The course is focused on attaining certain goals - reading X number of words, or X number of books, but at the same time demonstrating comprehension of the material being read. We are seeing similar outcomes as previous years, with a small number of students having issues with the out-of-class reading. Giving advice on how to manage their time and suggestions on when to read are somewhat helpful here, but it is still a challenge that is invariably down to the students' own time-management and self-regulation skills. As in previous years, finding a way to help students who have trouble engaging in the out-of-class reading component of the course is important, as these students invariably are unable to successfully complete the required outcomes.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Focusing on helping students to also develop a variety of strategies to help with their reading, especially in relation to intensive reading activities. Ensuring that all students are reading regularly, and at not at risk of falling behind and failing the class.

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
リーディングⅢ	2	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語で書かれた読み物を読み、内容を自分のことばでまとめたり、記事の内容に関する自分の意見を表現したりしながら、内容理解を深めることに重点を置いた。また、学生が関心を持ちそうな新聞記事やTED TALK、ホームページからの社会的記事など、知識や関心の幅を広げられるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成された		やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	教育目標の達成に関して、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.2と低いため「どちらともいえない」とした。細かく見ると、この問いについて「かなりそう思う」（9名）+「わりにそうだと思う」（9名）の18名/22名は目標を達成していると自己評価している。4名が消極的な達成度評価をしている。この授業は予習も復習も大変であったと思う。授業外の学習量についても多いし、インターネットを利用しニュースなどの背景を調べたり、TED TALKを何度も視聴していることがわかる。これらの受講生たちに関しては、教育目標を達成したと評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は、必修科目であるが、「受講動機」を見ると、「必修科目である」（4名）より「関心のある内容である」（14名）を選んでいる学生が多い。英語学科の学びの中で学生が関心を持っている科目であるという点からも、内容的妥当性は高いと評価できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの意見に「他国の文化なども学べ多様なジャンルの知識がついた」「授業の内容も説明も面白くて、勉強になることばかりだった」や「この講義では楽しく自主的に学ぶことができた」などがあった。このように感じながら勉強してくれた受講生たちがいることに感謝したい。次年度も今年度同様にリーディングを通して学生の視野を広げることを心がけ進めていきたい。ただし、読むことに少し苦手意識や苦痛を感じる受講生もいるかと思う。次年度は、そのような学生にも何かを学べたと自信をつけてもらえるよう読み物の内容を少し精査したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	この授業は学生に求めることが多く大変だったと思うが、8割の学生は教育目標を達成したと自己評価している。しかしながら、受講生の中で数名が達成度があまり高くないと評価している点は授業担当者として反省をしなければならない。必修科目であるため、リーディングに対しての思いが様々あるかもしれないが、次年度は、一人一人が何らかの達成感をもてるように一つ一つの読み物を読んだ後に振り返りをさせるなど、着実に学んでいることを感じられるよう工夫をしたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「英語学概論Ⅰ」は言語を複数の分野から分析的に捉えるための理論を学ぶため、比較的難解な内容も扱う。そのため、学生たちが英語学習者として、これらの知識が役に立つと思えるようにわかりやすく、例をできるだけ多く用いながら講義をすることを心がけた。英語という言葉に関心を持ち、知識を深めることができるようになることに一番重点をおいている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価の結果を見ると、(1)「自分なりの目標を達成した」は平均値4.5で1人(「まあまあそう思う」)を除くすべての受講生が「かなりそうだと思う」又は「わりにそうだと思う」と評価している。知識理解に関しては(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が平均値4.7、(3)「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が平均値4.5であった。意欲感心に関しては(6)「自分の専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.7であった。技術表現に関しては、(7)の問いに対し平均値4.7であった。これらの評価から、受講者自身の目標達成がある程度感じられる。また、教員側が期待した内容理解とそれを自分事として考えようとする姿勢は授業内でも試験でも見られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は学科専門必修科目である。英語に関する知識を深めることを目的とした科目であり、英語を専門として学ぶ学生にとっては「ことば」に関心をもつ入門の科目となる。DP,CP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容は妥当であると言える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの担当教員への意見に、「難しい内容でしたが、とても勉強になりました。授業の中で様々な視点から考えさせられる場面が多かったので、とても、面白かったです。」というコメントがあった。また、授業評価アンケート内の「授業の質評価」5つの質問項目の平均値が4.9が3つ、4.8が2つであり、授業の進め方に関しては、今回の方針・方法で次年度も引き続き実施してよさそうである。ただし、授業外の学習時間が少なく、次年度は課題の出し方を工夫したいと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	英語学の理論を中心とした講義で、少し難解な内容も含むため、学生たちにわかりやすく教えることに心がけて授業をしてきたが、受講生の理解度や意欲が相対的に見てある程度満足できるものであったようで安心した。ただし、学習量の自己評価を見ると、授業外での勉強をほとんどしていないと答えた受講生たちがいる。予習は課していないのでよいが、復習や発展課題を自覚してさせるための工夫が必要である。この点を反省し、次年度は授業内で学習したことを身の回りの言語現象に引き寄せて考えることができる課題を準備しようと思う。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライティング基礎	2	前期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学科専門科目の中の必修科目である。ライティングの基礎を固めるため英文を正確に書けるように丁寧に指導することを心がけた。わかっているつもりの文法事項などを明確に理解できるよう質問しやすい雰囲気や機会を与えることを大切にした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講生の約7割が「自分なりの目標を達成した」という項目において「かなりそうだと思う」と自己評価している。ただし、2，3人の受講生が「まあまあそうだと思う」と消極的な自己評価である。その他の知識・態度、技能などを見ても同様な傾向が見られる。このことから、達成された学生たちと必ずしもそうとは言えない学生がいることがわかる。授業の課題以外に具体的に取組んだ学習に関しても、予習復習に加え、自分なりにわからないところを学習していることが記載されている。これらのことから、受講者内で教育目標の達成度が分かれていると言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	ライティングの一番入門の科目であり、DP,CP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容としては妥当であるといえる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの「授業の質評価」を見るとほとんどが平均値4.8である。また、一番大切にしていた「説明は理解しやすいものであった」は4.9という評価であった。ただし、この項目も「まあまあそうだと思う」と評価している受講生が1名いることから、やはり、もう少し個々のニーズに配慮する必要があった。次年度は、理解度を確認する声掛けの仕方や、個々のニーズを把握する方法を工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教育目標の達成度としては、充分達成したと高評価をしている受講生が7割強であったが、1割の受講生が消極的な自己評価をしている点から、もう少し個々のニーズを把握した授業のやり方を考えなくてはならないと反省した。次年度は、わかりやすい説明は今年度同様心がけながら、適切な場面でフォローができるよう工夫をしたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	西原 真弓

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
エッセイ・ライティング	3	前期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「エッセイ・ライティング」は選択の学科専門科目である。パラグラフ・ライティングで学習した基本を応用し、5パラグラフエッセイを書くための知識と技能を身につけることを目標とした授業である。エッセイの構造を理解し、その知識を応用できるように順序立てて解説し、学生自身が実践しながら理解を深めていけるように授業を計画した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	まず、最終のエッセイ課題はほとんどの受講者が構成を理解し、的確に書けるようになっていた。授業評価アンケートの回答に関しては、回答数が半数に満たないため全体の評価とはいえないが、回答した人たちのデータをみると、「自分なりの目標を達成した」が平均4.8と比較的高く自己評価をしていることから教育目標はある程度達成したと思われる。しかしながら、意欲関心、技能に関しては平均値4.4であり、充分達成したとは感じられていない人たちがいる。この点からみて「どちらともいえない」の評価とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	英語を専門とする学生たちがライティング基礎－パラグラフ・ライティングと英語でのライティングについて学んだ後、さらに卒論を英語で書いたり、まとまりのある文章力をつけたい学生が選択で取れる科目であるため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見て、内容的には妥当であるといえる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本学に赴任して初めて担当した発展科目であり、授業の進め方に関しては手探り状態であった面がぬぐえない。学生たちが柔軟に対応してくれたおかげで最終的にある程度目標とするゴールに到達できた。受講者たちに感謝したい。授業評価アンケートの「授業の質の評価」に関してはほとんどの項目で平均点4.9であった（回答している人たちのみのデータ）。エッセイを書くために自分で調べなくてはならなかったため、図書、インターネットなどはよく利用していた。改善点としては、Google Classroomでのオンライン課題提出の方法やタイミングなど、今学期うまくできなかったことを次年度に活かしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講生の最終課題エッセイの仕上がりや授業評価アンケートの受講生自己評価から、教育目標をある程度達成したと思われる。ただし、意欲や技能の向上に関しては課題が残った。また、今年度はGoogle Classroomでの課題のやり取りなどスムーズにできないこともあり、学生たちに迷惑をかけることもあった。次年度は、エッセイ課題の出し方やAI翻訳の使用に関する教育なども含め工夫をしたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語文学Ⅰ	2	前期	必修	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	必修の科目なので、文学を選択したい学生もそうでない学生も受講することとなり、英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、そのような中、文学の知識や楽しみを教授できるように工夫している。大切にしていること、重点を置いていることは以下の通り。英語で書かれた世界の文学の特徴を、その歴史の流れと関連づけながら重要な作家や文学作品を紹介する。またそれらの作品の原文を部分的に読む機会も設ける。早い時期に沢山の文学作品に触れて、読書の習慣を身につける。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価においては、(1)(6)4.4(2)4.5(3)(4)(5)(7)4.3(8)(9)(10)4.0であった。昨年は(1)(3)(4)(5)で4,2であり(2)(6)(7)で4.3であった。(9)は昨年は3,9（2年前は3.6）で毎回低めの評価となり、英語文学という特質上、職業倫理や行動規範などについて書いた作品でも選ばない限り、高評価を得るのは難しい項目であると分析していたが、今年は4.0であり若干向上している。評価が4.0の(8)において、コミュニケーション力は訳をさせることくらいしか、発言の場がなかったことを反省し、文学項目について周囲と話し合う機会も定期的に設けたが同じく4.0であった。只今後期の「英語文学II」を実施中であるので、今後別の形でコミュニケーションを促し、数字がどう変わるのか観察したいと思うが、授業中に訳を進めるべき内容の分量が多く、時間配分に苦戦している。学生の成績は秀35%、優26%、良13%、可26%であった。正規分布するのが望ましいと言われているが、文学に対して好感さえ持てれば今後の自律学習に繋がっていける分野なので、やる気のある学生がよい成績をおさめやすく今後の読書に繋がやすくするという狙いにおいては目的通りの結果となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	今回の授業アンケートの自由記述・学習量（課題以外に取り組んだ）」の評価では、0回の学生が15名で1回の学生が1名であった。しかしながら、自由記述欄には課題以外に具体的に取り組んだ学習例が6コメントも出ていた。自由記述欄の学習量（課題以外に取り組まなかった）においては、「何をすべきかわからなかった」という意見は14コメント中2つにとどまり、課題だけで十分であったという意見も多く、こちらとしても、課題をたくさん出しており、その課題でDP,CPを達成するよう意図していたので、内容は妥当であったと評価する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」は(1)(2)4.9(3)(5)4.6(4)4.7であった。昨年は(1)4.3,(2)4.4,(3)4.2,(4)4.1,(5)4.3であった。Googleクラスルームの使用を資料のアーカイブ化や、学生の宿題提出の場として利用する機会を今年も活用した。年々感じるのは、学生の和訳レベルの向上である。学生からの意見への回答→「口頭でただ読むだけではなく、授業後に配信するなど、日本語訳をもっとしっかり解説してほしい」→日本語訳を聞き取るのに苦労したとのこと、すみませんでした。ただ訳の分量が多いので全てを細かく授業中に解説するのは困難です。あまり細部にこだわりすぎず全体で意味を理解してもらいたいという気持ちもあります。でも自分がわからなかったところの説明が不十分だと、納得がいかない気持ちはわかります。ここで、和訳本や、友達の助け（チームワーク）を借りる力が必要となります。わかりにくそうなところだけ口頭の和訳発表をICレコーダーに記録するのも可能です。もちろん教師にも個人的に授業外であっても質問しに来て下さい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	文学という専門領域を教えるにあたっては、教師の英語教員という枠を超えた深い専門性が授業の質に大きな影響力を持つ科目である。そしてその研究の内容を授業での情報提供や配布資料の充実という形で還元していけたらと毎年思いながら教育活動の傍ら研究をしている。達成状況としては、総合的には「やや達成」であり、課題としては、学生はこのままの学習意欲を維持し、更に予習や復習を丁寧に行えるように指導していきたい。「達成」と評価した去年に比べて、授業の質評価や学生の自己評価が向上したのに、「やや達成」に下がったのは、自分が教師として求めている授業の質レベルのハードルが高くなったという主観的な理由である。今回も、授業アンケートの自由記述欄に学生たちがたくさん肯定的な感想を書いてくれた。例年通り和訳をすることの楽しさや、リーディング力の成長に触れた意見が多かった。次々に進化する和訳ソフトについて英語授業で特に和訳を教える教師として興味があったコメントは以下の通りであった。「わからない単語や熟語を翻訳することがあったけど、翻訳だと自然な訳ができないことがあったので、少しでも自分の訳に自信を持って自分なりに翻訳できるようになりました。」「翻訳機能は使いましたが、直訳という感じがしたので自分なりに違う言葉に置き換えて自然な英語にするよう心がけました」教師が和訳ソフトの使用を学生に一方的に禁ずるのはもはやナンセンスの時代であり、和訳ソフトとの適切な関わり方を学生も模索している様子が窺えるコメントであった。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	齊藤 園子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語通訳演習Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	通訳に関心がある学生の受講が多いため、専門性を生かして通訳活動に関わる基礎的な知識やスキルを身に付ける機会を提供することを目指して授業を実施した。合わせて英語力の総合的な向上も本授業の目標として重視した。授業準備量は多くなるため、第1週の授業で説明した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講者の多くが授業課題の予習復習に丁寧に取り組み、通訳活動に関わる基礎的な知識やスキルを一通り身に付けることができた。受講者の取り組みを高く評価したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	該当DPのいずれにおいても要件を十分に満たす科目となったと判断できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講者の英語表現力や技術力が多様であることを踏まえて授業運営を工夫した。一層細やかな対応を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	概して教育目標は達成された。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディア英語Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	These were taught through using a combination of the Moodle LMS "My Study" portal for coursework along with the school's Google Suite. This is the first media class that the students experience, and most of the course is taken up with working on basic skills, and getting them up to speed on the CHleru e-learning system. Each week, they were given goals to achieve and specific items to work on. We also took this opportunity to do some IT skill building. We provided instruction on how to use Google Drive's suite of tools (Docs, Sheets, Slides, and Forms) and how to share and work collaboratively on projects. We would all meet at the end of the class for 5-10 minutes to share and summarize what we did that day, ending with a free talk time for students who wished to use it.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Attendance was not a problem at all (apart from two students who retired from classes due to personal issues), and completion of tasks was handled well by all of the students. All students passed the course with grades ranging from 70% to 98%. The average grade was 85.68% with a standard deviation of 16.36. These grades were slightly higher than last year's online results.☑					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	All DP goals were achieved. In terms of willingness to work and attitudes, most of the students did very well, especially given the fact this was their first semester at school and that they were being taught a skills class in English for the first time. They were held back a little by their basic knowledge and understanding, but that is very understandable given they had just begun full English classes, were working with unknown systems, and had never met their peers or teachers. The IT skills they gained were extremely useful for them, and we can already see the positive carry over into other courses.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The students learned a lot in the first semester, and will carry that knowledge through to all of their classes using the a whole suite of activities and resources we have built up. Being a media class, the list of available online resources is massive, and we fully intend to implement as many of them as possible. Changes for next year include adding instruction in the use of AI-powered tools such as DeepL and ChatGPT so that they can improve their English skills while utilising their functions.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Transparency is a key point of the assessment systems in this class. As in all of the media and presentation courses, the class was assessed in a totally task-based manner. For each activity, they were given a grade which they could access at any time to check their progress. For students who were slipping behind, it was a quick process to provide feedback to them and encourage them to catch up. We don't envisage any need to adjust this process significantly. We do, however, need to implement some positive achievement system for those students (the majority) who submit work punctually and to a high standard.

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
時事英語入門	3	前期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本年度が初めての担当でしたから、事前に以下の点に気を付けました。英語学科開講の科目ということもあって、教職を目指す学生もいましたから、学習者がつまずきそうなポイントも意識して、学生たちに質問を投げかけるのを意識しました。また英語の学習のしかた、トレーニングの方法なども紹介することを意識しました。ある程度基礎的なことは理解している学生が多いだろうと判断しましたので、基礎的な解説は省いたうえで、より高度な質問を投げかけたり、アウトプット活動に多くの時間を割きました。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の評価を見るに9割近くが④⑤を解答しているためそのように判断しました。また自由記述で授業以外に記事を読んだり音読トレーニングなどを積極的に行ってくれていたことが分かりました。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的には妥当であったと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業外の学習を促すために、本文の音読のテストなどを導入してもいいと思いました。実施すると時間はとられると思いますが、やる価値はありそうです。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	英語学習や英語という言葉自体に興味を持つ学生が多く、積極的に授業に参加してくれましたので、英語でニュースを読むだけでなく、それを使ったトレーニング方法まで多岐にわたって授業することができました。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーションⅠ	2	前期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The aim of this course was for students to gain an understanding of the fundamental concepts of intercultural communication, and to try to think about the connections between these concepts and their own lived experiences, the experiences of others, and various issues in society. I tried to incorporate as many group activities and discussion chances as possible to deepen students' understanding of the content and also their interest and motivation. I think this was successful, however I'd like to think about how I can make this an even greater element of the course next year. In addition, it seemed that some students felt the lecture handouts were a little difficult. I'd like to think about how I can amend these to make them more accessible to more students, and ultimately to better support student learning and understanding.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The majority of students displayed a good understanding of the course material, and were able to use it to explain their own experiences and relationships, as well as issues within society. This was clear through oral presentations and comments made during class and the weekly reflection papers, although some students failed to reach a deeper level of explanation in their reflection papers. Regarding the final papers, while there were some well-structured and well-written papers, there were also many which suffered due to a lack of understanding about the basics of writing an academic paper. This has been an issue in previous years too, and I have tried to address it by introducing resources about how to write academic papers. However, this year, again, it seems that this was not enough to address what may be a more deeper underlying issue.					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	There seems to be no particular problems regarding this.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	I tried to incorporate as many chances as possible to conduct group activities, discussions, and presentations, and I felt that students were able to gain a greater understanding of the course material, and a deeper interest in the course, through sharing opinions with their peers and experiencing more practical applications of the course content. I would like to incorporate even more opportunities for these kinds of activities next year. At the same time, with more class time being allocated to these activities, there is a need to adjust the amount of content covered, which I wasn't always able to adequately achieve this year. Related to this, I feel it is necessary to rethink the presentation of the lecture handouts to make them more simple, and at the same time more effective at supporting student learning. I would like to work on these two points especially next year. The final paper is a major chance for students to demonstrate and further apply their understanding of the course content. However, with many students seeming to lack a deeper understanding of how to write an academic paper, I felt that students were not able to achieve their full potential. This year again I incorporated time during class to introduce resources for this, however this did not lead to huge improvements in the quality of papers. As this course is not about learning how to write an academic paper there is not much class time that can be allocated to instruction of this. However, this is something I would like to consider more when teaching this course next year.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Overall, I felt that I could achieve the course aims. However, there are several areas which can be improved, as outlined above, and I plan to work on these when delivering the course next year.

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
エリア・スタディ I	2	前期	選択		19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The main aim of this course was for students to begin to learn about key elements of Australian history and society through the lens of race, specifically looking at the topics of multiculturalism and Indigenous Australians. The course was set up in a way to also help students gain general skills that they could then use to learn and research about other cultures and societies. For example, various materials were used, including statistics, newspaper articles, movies, music, and other online resources, and I was careful to make it clear that these were materials and methods that students could use to conduct their own research. Moreover, a specific chance was provided to do this through the final presentation project. As the course was conducted almost entirely in English, I was careful to support students' understanding through the use of visual materials, revision quizzes, and various pair and group activities. However, it seems that for this year's cohort, perhaps due to their underlying English proficiency and basic academic skills levels, the material was at some times too difficult. I tried to make adjustments to my delivery of the course in light of this, however I still feel that for some students it may have been too difficult for them. In previous years this course has been divided into two classes based on student proficiency levels. This was not done this year, and this might have also contributed to the difficulties that lower level students seemed to face.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Many students displayed a good understanding of the course learning points and engaged deeply with the materials. However, for some students using English to engage with difficult content matter seemed to present a challenge. There were occasional incidences of misunderstanding when engaging with certain authentic materials. The level of understanding and performance seemed to be significantly lower than in previous years, and I am not sure if this is a new trend or a one-off incidence. However, I would like to rethink the course in light of this, and consider if I can change things in a way that not only help improve student understanding, but also help to better achieve the course aims in general.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	There seems to be no particular problems regarding this.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Although I felt that the course went well overall, in light of the points raised above I would like to reconsider not only my deliver of the course but also the particular course aims that I am setting. I have a few ideas for points that I can improve based on student suggestions given in the class evaluation survey as well as my own observations of students in the class and personal reflections, and I would like to experiment with these ideas when planning the syllabus for next year's class.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Overall, I felt that I could achieve the course aims. However, there are several areas which can be improved, as outlined above, and I plan to work on these when designing next year's syllabus and delivering the course next year.

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際経済入門	2	前期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は1年次に履修した「国際理解科目」の発展的内容を取り扱うことが予定されている。この点については受講動機においても「関心のある内容である」という項目が64.3%と相対的に高い比率を示していることから、授業への期待を窺うことができる。また、本授業は観光文化学科との合同授業であるため、経済の基礎知識を織り交ぜたレジュメを作成・配付することで丁寧に授業を進めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	「職業選択の参考になった」という項目の平均値は3.9とやや低いため、DP4は「やや達成された」と判断されるが、到達度自己評価項目のその他の項目の平均値は、すべて4.0以上となっているため、総じて達成されたと判断できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP全体の平均値は「職業選択の参考になった」という項目を除き4.0以上をマークしており、内容的妥当性については特に問題がないと判断できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価項目をみると、平均値のすべてが4.6以上となったことから、今後もさらに質の高い授業を展開していきたいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体としては授業目的は達成されたと判断できるものの、「説明は理解しやすいものであった」という項目と、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目の平均値が4.6と僅かに低かったため、今後は学生に対して発表の機会を設けるなどの工夫を検討していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
職業選択と能力開発	3	前期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると、「関心がある内容である」と答えた学生は79.3%であり、「単位数を確保する」と答えた学生の72.4%を上回っていることから授業への期待が窺える。授業においては就職活動で避けては通れない「履歴書・エントリーシート」の作成、②集団面接、③グループディスカッションの3つを中心に学生が主体的に参加できるように工夫をおこなった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価項目をみると、すべての項目が4.4以上の評価となったこと、また自由記述においても、「授業内で面接練習やグループディスカッションをしたことで、就活のシミュレーションをすることが出来た」、「実践して練習する時間が多く取られており、就活においてとても役に立つと思いました」などのコメントを根拠として挙げるができる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は専門教育科目の「キャリア形成科目」の3年前期に配当されている科目であり、2年前期の「インターンシップ」、2年後期の「現代ビジネス人材論」に続く3年前期に配当されている。既述したように、受講動機において「関心のある科目である」と答えた学生が79.3%であること、自由記述においても高評価のコメントがあることから内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価については、5つの項目すべてにおいて4.7以上の評価となっているため、授業の進め方については問題ないと考えます。今後もさらなる授業の質向上に向け努力したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	到達度自己評価項目、学生の自由記述、授業の質評価いずれにおいても高評価を得ることができたため、一定の成果があったものと判断できる。今後も授業の質向上に向け不断の努力を重ねていきたいと考えています。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	寺井 泰子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
簿記演習	3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年生の英語学科の学生を対象としている科目であることから、簿記演習という科目内容についてイメージしにくいことが課題の一つとしてあげられる。 説明の際はなるべく身近な事柄から連想させるように説明することを心掛けた。 今回の受講動機をみると選択率の高さは「単位数を確保する」、「関心のある内容であった」、「資格取得に必要である」の順であった。少数ではあるが、日商簿記検定試験の受験の意思が明確にある学生がいること、授業中の聞き取り調査で、明確ではないが、将来的に日商簿記検定試験の試験の受験を考えてる学生が数名いることを確認したうえで日商簿記検定試験3級の資格取得についても視野に入れた授業計画とした。 ②単元のまとめ毎に確認テストをいれて理解度を確認した。学生の復習の意識を高め、学習状況を確認するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された				やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77点であった。理想的レベルに達していると判断できる学生は15名中に4名いた。 学生による授業評価において到達度自己評価の項目の中央値以下となった項目がいくつかあり、到達度項目に沿った内容に沿った内容で授業構成を練り直したい。また、学習量評価において、数値と授業内の提出課題の数値が大体一致するので授業以外の場面での意欲までは引き上げることができなかった、と捉えている。授業以外の部分まで関心がむかなかったことなどを課題としてとらえ、授業内容の計画についてはさらに検討を進めたい。また、復習に力点を置いた課題を増やす方向で来年度は取り組みたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生による授業評価によると、受講動機は「単位数を確保する」が高い数値を示していたが、学習到達度の自己評価の質問項目については「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」を評価した学生が多いことから、内容的妥当性においては問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	情報利用の点において、シラバス記載を参考にしなかった学生の割合が高く、授業を進める中で学生の理解度に差がありすぎて授業の進行が難しいことがあった。 そのため、授業計画を修正しながら進める必要もあった。できることならば「簿記入門」の履修後に「簿記演習」の履修を学生に促すようお願いしたい。 全体的に授業中に実施する予定の内容復習の時間が想定より少なくなってしまったことは反省点である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業過程を振り返って見たとき、簿記入門内容の復習を加えたが、簿記演習で説明する内容を復習する時間が少なかった。 次年度は予習課題の提示などで改善を図りたい。また、内容を吟味して絞り、整理を行うことで、学生が思考して問題を解く時間的余裕を作ること、質問を効率よく受け付けながら課題を行う時間を設定したいと考えている。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	柳 純

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際ビジネス論	3	前期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義では3年次配当科目であることから、専門性が高い内容を教授することを意識している。ただし、社会科学系の科目である点を考慮して、受講者の理解度を高めることを優先した。 受講動機では、「単位数の確保」（90%）が大多数を占めた一方で、「関心のある内容」（40%）である点もうかがえる。しかし、受講者の学習準備状況は1回30分程度の準備が「0回」が60%を占めている状況であり、「2、3回」も30%程度であった。この点は、課題を課した回やレポート提出に係る学習も含む点を、学生が認識していない可能性もあるが、自由記述欄には「授業内で十分」や「他の課題が多かった」との意見があり、本講義だけの問題ではない点もうかがえる。 これらの点を鑑みて、総合的に事前学習（予習）ならびに事後学習（復習）について、今後は量的な側面を意識しながら授業計画に盛り込んでいきたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	30名の受講者の内、成績評価はSが1名（3.3%）、Aが13名（43.3%）、Bが13名（43.3%）、Cが2名（6.7%）、Dが1名（3.3%）であった。この結果から目標を達成していた受講者が多いと思われるが、「授業の課題以外に学習に取り組んでいたか」との問いでは、90%がしていないとの回答をしている通り、受講者が積極的に取り組んだ結果ではない点もうかがえる。 また、到達度自己評価で「かなりそうだと思う」の割合が高かった「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（80%）、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」（70%）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（70%）を含めて、平均値は4.1～4.5であったことから、目標はやや達成できていると考えられる。 なお、情報利用の点で「シラバスの記載を参考にした」受講生は30%であり、「図書館利用」も20%程度である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義におけるDPのウエイトは、「思考・判断」（45%）、「知識・理解」（25%）、「関心・意欲」（15%）の順に高く設定している。受講者の到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」や「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」等の項目が高くなっている。また、受講動機の中では「関心のある内容である」の項目の選択率も上位であることから、妥当であると判断できる。 ただし、「国際」に係る科目であることから、主たる受講動機の結果として「単位数を確保する」が非常に高くなっている点は、精査する必要があると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	カリキュラムに示した「授業計画」通りに進めることができた。とりわけ、「授業の質評価」の面においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」や「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の項目が高いレベルで評価されている。 しかし、本講義は主たる受講動機にも現れている「単位数を確保する」ためだけの科目ではないため、まずは、受講者の関心度を高めることにも注力しつつ、基本的な当該分野の知識や理解度を高められるよう、平易な表現や映像（動画）を用いた事例を、講義内容に盛り込みながら進めていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合評価として、目標は達成できていると思われる。しかし、各項目を見ると、受講者からは「少しそうでないと思う」との評価が散見される。とりわけ、「到達度自己評価」部分で平均値が低い「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」や「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」、「職業選択の参考になった」点を意識しつつ、国際展開している企業の概略紹介等を講義内容に盛り込みたい。 また、受講者の講義内容への関心をより高めるために、事例を多く盛り込むなどして工夫を凝らしていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	宮原 英利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
航空ビジネス研究	3	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・事前学習の定着を目的に、必ず次回の授業範囲を読み込むよう指導。その際、授業内容に応じ、航空業界に環境の変化が無かったか。あったなら、それが航空業界や航空会社にどのような影響が出るか、その都度考えるように指導。 ・授業開始時に、一週間を振り返り何か興味を引く出来事が無かったか確認。少しずつ発表する学生が出てきた。しっかりとした視点を得られるようにすると興味も深まる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	・授業における「到達度自己評価」では、①自分の目標を達成した、②知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、③事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた、という項目の評価が高く、そのほかの項目においても評価は高く、しっかりと授業の内容を把握していることがわかる。 ・課題のとらえ方もレポートから判断し把握していることはわかるが、表現において今少し踏み込んで構成する必要がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・受講動機において、「関心のある内容」であったので受講した、が66.7%であったが、最終の定期試験の結果は単位を落とした学生はいなかった。結果としてほぼ全ての受講生がしっかりとこの科目をとらえてくれたからだと思料する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・レポート提出を2回以上は行うことが出来なかった。受講生の勉強の記録として残すためにも、もう少し幅を広げた視野を持てるよう参考文献等を読むように改善したい。 ・受講生から、大変ありがたい評価を頂きました。この評価内容を今後も続けていきたいと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・授業の質評価において、テスト、レポート等の評価基準をよく理解してくれており、今後の励みとなりました。 ・受講動機に、当科目に関心があったから履修登録をした受講生は6名とあり、単位取得のためが8名であった。しかし、授業の質評価において各項目の受講生の評価は4.9をはじめ、高い評価であった。これは、単に単位取得のためと思って受講した受講生が、授業が進むにつれ内容に興味を持って授業を受けてくれた証だと思います。やはり、興味を持てる授業内容にすることが重要であることから、そのためには、実際に起こった現場での出来事を肌で感じられるように適宜紹介していきたいと思います。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	山崎 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
児童英語教育入門	3	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・授業内容については、文部科学省によるコア・カリキュラムを参考として構成している。 ・本授業は教職関連科目ではあるが、選択教科として教職志望でない学生も多く登録している。教職志望者には十分は背景知識が得られること、志望者でない受講者には、本授業受講を通して、現行英語教育や自身の英語学習体験への理解が深められるよう計画した。毎授業では教科書の内容を補足する背景知識や関連事項を加えたワークシートを準備している。 ・学生の理解度の把握やコミュニケーションの場としての毎授業後のフィードバック、課題提出はGoogle Classroomにて行うこととした。 ・毎授業の終盤は、教材紹介とクラスの雰囲気作りのために、教室で歌える歌やチャンツ、ライムなどを紹介することとした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された		達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	・学生の到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.4であり、中間値が4.0であった。成績分布では、A9名、B18名であった。 ・「事象を理解する視点や考え方を得た」かについては、平均値が4.2であり、中間値が4.0であった。 ・「専門分野の課題を検討する力を得た」では、平均値4.4，中央値5.0であり、両方において十分な達成感となっていない。 ・「学びを深めたいと意欲を持てたか」については、平均値4.4，中央値5.0であった。課題提出や発表において個人差があり全体として十分な達成となっていない。 ・「技術を身に付けたか」「コミュニケーション・表現力」においては、どちらも平均値4.4，中間値は5.0であった。授業には発表課題が設定され全員が発表したり講評を述べたりする機会があり、各自は健闘していたが、さらに高い達成度を求める学生も回答の半数近くいることが推測される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・本科目は、教職課程履修者、日本語教師資格取得希望者にとっては必修であるが、同時に単位取得のための自由選択科目である。そのため、受講動機に幅があると思われる。一方、英語学科卒業後、人生のどこかの場面で「英語の堪能な地域人材」として、児童（小学校）英語教育に携わる可能性は高いと考えている。そこで、全員が必要な知識を身に付け、判断の基準を持てるよう計画している。到達度自己評価において、すべての項目が4. 2以上あり、10項目中8項目において中間値が5. 0であったことから、内容は妥当であったと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・「授業の質評価」において、全項目の中間値が5. 0、平均値が項目（1）（2）（3）（5）において4. 6、項目（3）は4. 4であった。（1）「レポート課題の評価基準の明確化のため、全レポート課題において、マイナスの理由となった点を明示して採点してきた。ただ、レポート課題については詳しい説明を求める声があった。フィードバックやメールなどで質問をいつでも受け付けていたが、今後は授業においてもレポート課題の説明を行いたい。最終課題は授業初回に文書にて説明して授業参観の成果として取り組めるようにした。 ・発表課題も開始3週間前に文書にて説明し、実施前の授業ではリハーサルも行った。 ・（3）「説明を理解しやすくする」ため、ワークシートやパワーポイントにて要点を明示した。 ・（4）「話し合い・意見報告」はグループワークに加え、フィードバックを利用して感想交流を行った。学生の真摯な学習態度に感銘を受けることが多かった。 ・「学習量の評価」において、授業以外の学習時間が少ない学生が多かった。これは、履修動機にも明らかのように教職志望でない学生が多いことも関連していると思われる。今年度は、「必修・資格取得に必要」な学生が25名中14名であった。自由記述にも、「授業内で理解できた。」「他の教科に力を入れた」との理由があったが、授業外で「気になったことは調べた」「学習指導要領を読んだ」「文部科学省のホームページから英語の公開授業の動画を見た」などの記述もあり授業をきっかけとして学びを深めた学生もいたと思われる。 ・「小学生を対象とした話し方」をしているとの指摘があった。今後気を付けたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・自由選択科目として、学生の受講動機には幅があるが、シラバスに取り上げた項目に沿った内容には、学生が概ね満足していると考えている。教職志望でない学生の毎授業後のフィードバックから、改めて自身の英語学習体験を振り返ってより深く理解する機会となったり、現行の英語教育や教育全般についての視野を広げるきっかけになったりしていることがわかった。 ・対面授業が平常になったので、その利点を生かした授業内容、学生の活動をさらに工夫したい。一方、Google Classroomにてレポート課題やフィードバック提出、学生との個別コミュニケーションが行えることを生かし、学生一人ひとりがきちんと学びに参加し、十分に課題に取り組めるよう今後も努めたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	Students came into this zemi expecting to be engaged in project-based learning as was described in the zemi description, and that is just what they got. Right from the start, this zemi group got right into organising and implementing projects. In the first semester, they worked on two big projects. The first was the Green Tourism project at Yuikirara near Nakatsu when they planned a visit and spent a weekend doing local activities. The second was the start of a project at Yaskawatei in Kitakyushu where they worked on creating English materials. Both projects have continued into the second semester. This group has proved to be the perfect zemi with an excellent balance of leadership and diligence.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	All 9 students in this seminar group worked hard on projects and collaborated very well. They planned together as a group and implemented everything very well. Assessment, attendance, and participation have all been of a very high standard. I had no hesitation in grading them highly.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	For this seminar group, the goals of all the DPs were all very satisfactorily achieved. Students joined the group with clear goals and purposes, and worked towards these. There were no students who lacked purpose or direction.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	This will be my final year teaching a seminar, so no changes need to be decided for next year. However, each year's seminar group is totally different, so has to be dealt with in its own way. This year's seminar has been able to work to achieve the goals that shared in the overview they received upon selecting this seminar, so the goals for this group don't need to be changed in any way. Adapting to the needs of future seminar classes will need to be dealt with on the fly with a mixture of flexibility and creativity.
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示してください。	This will be my final year teaching a seminar, so no changes need to be decided for next year. Assessment for this class is based around a combination of the teacher's own observations and the students' own self-assessments and peer review. This approach is transparent and collaborative, so there is no need to implement any changes in the foreseeable future.

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。 ② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるような企画として、サスティナブル・ハウジングについて調査し、アジア太平洋地域の若者たちとオンラインで話し合うというプログラムに参加した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	発表や提出物について、全員が熱心に取り組み、高い意欲関心を持っていることがうかがわれた。また、それぞれの課題を適切にやり遂げ、思考判断、技術表現もかなり身についたと思われる。 学習到達度の自己評価については、全ての項目について全員が「わりとそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値は4.4から4.8、中央値は4.5から5.0、学生自らもかなりの達成感を得られているものと考ええる。 学習量の評価については、予習や復習の時間をとることがなかったものはおらず、全員が授業の課題以外にも学修に取り組んでおり、積極的に学修に取り組んでいたことが窺える。このことは、学生の発表等からも窺い知ることができた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、1名が一つの項目について「少しそうではないと思う」と回答しているが、その他の学生は「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答している。また、各項目についての平均値は4.5から4.8、中央値は全て5.0であったことから、授業の内容や進め方については概ね適切であったと思う。また、アジア太平洋地域の若者とのオンラインプロジェクトについては、事前に課題を確認したり、発表のリハーサルをするなどしたことから、スムーズに進めることができたと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	テキストでの学修、アジア太平洋地域の学生とのプロジェクトのどちらも、すべての学生が課題をきちんとこなし、討論にも積極的に参加し、教育目標に達するものであった。一方で、図書館の利用やデータベースの活用等については十分学修の時間ととることができなかった。アジア太平洋地域の学生とのプロジェクトでは、持続可能な住宅について調査したのだが、図書館の活用をもっと活かせるよう導くことができなかった点は反省点である。後期の授業でこの点は補っていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると例年は当然ながら「必修科目である」100%であったが、今年は、「必修科目である」71.4%,「関心のある内容である」100%であり、受動的というよりは能動的な受講動機の数字が嬉しかった。13人全員の学生が自由意志で第一希望としてこのゼミを選択してくれている。多くの学生が、ゼミの志願書に「文学を勉強したい」という趣旨の内容を記載しており、期待の大きさを感じた。②授業の初めに新聞を分析発表する活動をし、世の中の動きに対しクリティカルシンキングを促した。この活動は、人にわかりやすい話ができるようになる練習の意味もあるが、自分を取り上げた社会問題に関して、ニュースの記事に載っている以上の自分独自の解決方法を提案するようにもお願いしている。また就職活動での話題作りや、面接での応対練習にも役立ててもらいたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	出席する学生は全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだ。A 67%, B11%,D11%,J11%であった。BDJの成績の学生は減点となった理由は主に欠席が原因であった。授業の質評価は、(1)4.7(2)4.9(3)4.9,(4)4.9,(5)4.9であった。去年は（1）5.0(2)5.0(3)4.8(4)4.8(5)5.0であった。上記のすべての項目において「やや達成された」と評価したのは、出席を安定してした学生と、欠席が目立つ学生との間に差が出たからである。TOEICの点数を上げたという意見が例年多いので、毎回の授業に十分程度ではあるが勉強する時間を今年も設けた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：内容的に妥当である。③問題なし
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の意見（一部）：イギリス文学を読んで歴史的文化的背景が日本と違いとても面白かった。実際に文学で出た建物などをインターネットで調べながら読むことで想像がしやすくてとても楽しみながら読むことができた・自分の意見をみんなに伝えたり、みんなの意見を聞いたりすることでもっと自分の意見が深まったり、視野が広がったりするので有意義な時間が過ごせました・今までニュースに目を向けることが少なかった私も毎週必ずニュースを読む習慣ができました、など。ニュース、マナーやSPI、TOEICは、毎回Googleクラスルームに色々な資料を掲載している一環で、クラスルームの存在が学生にとっても教師にとっても重要なアーカイブ資料として役立っている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	文学好きの全員が第一希望で入ったゼミだけあり全員が円満で親しみやすい雰囲気を持続してくれ、学習意欲も高い半期となった。学生たちの文学の深読みの能力はとても高く、発表では意見を明確に表現できており、教師を感動させてくれる場面がたくさんあった。何かゼミという枠を超えて、研究を外部の世界とつなげる活動ができればいいのであるが、教員の力不足でまだ教室を出れないでいる。他のゼミを参考にさせていただいたり、教育学会などにも顔を出して、私が教育者としての質を上げていけたらと思う。今年は、ゼミ生の数人がシニアサマーカレッジで、文学のディスカッションをする活動に参加してくれたことは一つの進展であった。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教職の歴史的変遷、法制度などの基礎的知識理解を深める部分と、教職をめぐるさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。 ③後半の教職をめぐるさまざまな事例の考察は、昨今強調されている「チーム学校」という考え方を受けて、学校教育を支える多様な機能に焦点をあてて構成した。スクールソーシャルワーカー、不登校対応専任教員、夜間中学教員、院内学級担任、部活指導員などの実践例を映像を通して、教職の幅の広さ、奥の深さの認識を深めた。 ④学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価は、2度の小テスト、長短の数度のレポート提出の合計点で行った。前半の教師の服務についてなどの理解は、筆記試験で確認する必要があり、今年度より小テストを実施し、理解の定着を図った。 ②80点以上90点未満1名、70点以上80点未満6名、60点以上70点未満1名、60点未満（不合格）1名、平均71点であった。成績としては、低調である。とびぬけた学生がいなかった。 ③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。2年生ということもあり、まだまだ進路についての自覚や目的意識が明確になっていないからと考えられる。 ④グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性については問題ないとする。 ②DPについて 教職課程独自のDPではないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①毎回の事ではあるが、授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①1年後期に開講される「教育原理」が教育学への入門的科目であるので、本科目が職業としての教職に関する専門科目としては最初のものである。ガイダンス的な科目として、幅広く学校教師の仕事についての理解を深めようと考えたが、昨年同様に前半と後半で学生の態度に違いがあった。やはりグループワークを取り入れ具体例を考察した後半が反応がよかった。 ②次年度からは、自らの課題と感ずることが出来るような授業構成と方法を改善したい。 ③次年度では、学生の関心が高いスクールソーシャルワーカーを外部講師として招きたいと考えている。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	平和で幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。（客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる）授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「映像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学習指導要領における特別活動及び総合的な学習の時間の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心にしながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。 ②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。 ③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価においては、すべての項目が平均値で5.0であったが、授業後の振り返りシートの内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績においては、70点以上を獲得した学生が15名中4名だったため、上記の観点において目標を「やや達成した」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業後、英語科教諭をめざす学生にとって、学級経営や生徒指導、道徳教育と密接につながっている特別活動及び総合的な学習の時間の指導内容は非常に重要である。そのような点から、学生の自己評価での項目「職業選択の参考になった」の数値が高い点などから、内容的な妥当性は高いと判断できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」項目については、いずれも高評価だったが、回答数が不足しているため断言はし兼ねるが、毎時間の振り返りシートの記述から、学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料を活用することなどが効果を上げたと考えられる。また、できるだけ丁寧に毎時間の振り返りに対して助言や補足説明などを進めたこともあり、学生の理解を深めることができたと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	将来、中学・高校の学級担任をする可能性のある学生であるため、学級経営との関連や教科指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動及び総合的な学習の時間の位置づけや役割、特に特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように努めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。 次年度も、特別活動及び総合的な学習の時間の本質を的確に理解できるようにするとともに、教職課程の授業として、教職への意欲を喚起し、より実践的な資質能力態度が向上するように、一単位時間の授業展開に関してもさらなる工夫改善に努めていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
特別支援教育論	3	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	他の教職関連科目での障害児教育についての予備知識がどの程度が不安内のため、用語等を授業中に学生に確認し、出来る限りイメージしやすいように心がけ授業を進めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない		どちらともいえない			どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	教科書・資料の持ち込み可とした定期試験を実施したが、結果から受講者全体を通して、目標達成に至ったとは判断できかねる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性はあると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教科書は予復習の参考文献として準備したが十分にその機能を発揮したとは考えられない。教科書の利用等については授業開始時で案内していたが不十分であったのではないかと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	障害児者に出会った経験、または関心がないとともすれば学習への積極的参加が困難になることを考慮して授業準備をしていく必要がある。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教育方法の歴史的変遷、学習指導要領の変遷などの基礎的知識理解を深める部分と、教育方法の理論にしたがったさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。 ③具体的な実践について、学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。 ④グループワークの実践的力量をつけるために、主にKJ法を用いた演習を実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価は、数度のレポート提出の合計点で行った。 ②90点以上1名、80点以上90点未満8名、70点以上80点未満2名、全体の平均点は82.7点であった。よくがんばった成績だと考える。 ③基本的に「知識理解」のみの評価基準であり、多人数かつ複数学科の学生により構成されているので「態度」を判定することは困難である。 ④「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。 ⑤グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、3年生の場合これまでの高校から大学入学までオンライン授業中心であったことから対面での授業を嬉々として楽しんでいる雰囲気があった。しかし一部には、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的妥当性については問題ないとする。 ②DPについて 教職課程独自のDPではないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎回のことから、授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①2年時に履修した科目に引き続き、教職に関する専門科目としてはかなり専門的内容を含んだものである。これまでの学生自身の教育・学習体験を相対化、理論化できるようにとのねらいから取り組んだグループワークによる具体例の検証は、学生の反応がよかった。やはり「教育方法」という科目は、それ自身が教育実践として学生に提示されてしかるべきものであると改めて認識した。 ②次年度からは、授業内容をさらにバージョンアップして、授業を通して学生自らの課題と向き合うことが出来るような授業構成と方法を改善したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	安海 和枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅱ	3	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本授業は、教職を取得する学生にとって必修科目であり、資格取得のために必要な科目である。そこで、テキストに沿った理論だけでなく、教育現場の実態や課題、日々の授業において基本となる文部科学省が示す学習指導要領の理解など、実践的な情報も資料と共に多く提供した。また、英語による授業ができることなど、教職に就く上で必須と思われる具体的なスキルの獲得と実践を行う場も提供した。それらはみなアンケートの受講動機が示すように、教職の取得をめざす多くの学生が望んでいる内容であったと考える。 ②「英語で授業を行う」ことについては、授業のオリエンテーション時に苦手であると答えた学生が多かったので、教室英語のテキストを用いて基本的な表現などを練習させ、実技テストも行った。 ③毎時間、学習したことをもとにいくつか課題を与え、次の授業でプレゼンをする準備を行わせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・期末試験の成績の平均値は86.8点であり、再試対象は0名であった。12名全員が理想的レベル（80点以上として試験を作成）に達した。 ・知識理解を問う質問は概ね90%であり、テキストや実践的資料に対する正しい理解は概ねなされていると考える。 ・学生による授業評価においては、全体を通じて自分の目標をかなり達成したという回答であった。（アンケート提出者が12名中1名であったため、全体的なデータとはなっていない。以下の「学生の授業評価」は全てその1名の学生の回答である。） ・知識理解においては、知識を確認したり修正したり新たに得ることがかなりできたと回答していた。 ・態度について、専門分野について学びを深めたいと、かなり意欲を持ったと回答していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は教職取得を希望する学生にとっては必修科目である。教育実習や教員採用試験を受験するために必要な理論や授業実践を学ぶという課題に応えるように実践的な内容を工夫し、学生も一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価や模擬授業の評価から、受講内容を良く理解しており、それを実践につなげている学生がほとんどであった。また、学生の授業評価においても、専門分野で必要となる技術を身に付けることができたと回答していた。これらのことより、内容的には妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」に対して、かなりそう思うという回答であった。これは、ペア・グループで話し合いをさせたり、毎時間の課題を次の授業でプレゼンさせたり、学んだことをもとにペアまたはグループで模擬授業を行ったりするなどの機会を十分に確保したためであると考ええる。 ・「口頭・文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」に対しても、かなりそう思うという回答であった。これは、授業中の質問を多く出させて解答させたことによると考える。ただし、質問する生徒は一部に限られていたので、今後は課題提出の際に質問を書かせる機会を設けたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・期末試験において、成績の平均値は86.8点であり概ね満足できるものであったが、テキストや資料の正しい理解はなされている一方、自分の言葉での確に説明をしたり、スキルの獲得にかかわること（英語で授業を行う必然性など）や、授業のプレゼンや模擬授業などの経験を通して学んだことを価値づける力が不足している学生が見られた。その背景として、模擬授業の自己分析・自己評価は毎回行ってきたが、教師側のフィードバックが不十分であったと思われるため、個々のより丁寧なフィードバックを検討したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○2022年度 全体平均77.8、英語学科平均75.0、秀7.1%、優50.0%、良28.6%、可0.0%、不可14.3% 標準偏差15.24 ○2023年度 全体平均81.5、英語学科平均79.4、秀12.5%、優50.0%、良37.5%、可0.0%、不可0.0%、標準偏差5.83 ○本年度は可及び不可がなく、秀が5ポイント上昇した。データの散らばりは小さくなり、学科全体として満足できる結果となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○授業の進め方としては(1)道德とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道德教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道德の授業を組み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。 ○本年度は実際の学校現場で用いられている各種資料の参照、理解度を深めるための課題等について多様な形式を工夫した。 ○指導案作りに関しては、いくつかの段階を踏んで作成できるよう課題作成・提出を組み合わせた。 ○今年度は道德教育の評価に関する学習を強化した。 ○実際の授業記録動画の視聴を課題とし、その上で授業中に動画を再生・解説するなど、実際の授業の雰囲気や教師の具体的指導方法の習得に務めた。 ○児童生徒を意識した授業づくりの楽しさを一層感じることができる授業としたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○達成状況は満足できるレベルにある。 ○次年度も今年度同様の達成度を実現したい。また、未提出者が出ないよう段階的な学習指導案づくりの指導を続けたい。 ○授業実践動画の視聴と検討に時間をかけたが、これは比較的理解を深めるきっかけとなったと思う。次年度も同様の試みを継続する予定である。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	英語学科
氏名	秋山 俊史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生徒・進路指導論	3	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①全国的に教員希望者が減少しており、教育界にとっては大変憂慮すべき状況のなか、8割の学生が「資格取得に必要である」2割が「関心のある内容である」と考えており、目的意識が大変高いことがうかがえる。そのため学校における生徒指導の実情とその対応について、事例などを織り交ぜながら実践を学べるようにした。 ②基本的な教育法規や教科書や資料に示される内容の解説はもちろん、自身の教員や指導主事としての経験から得たより実践的な対応を示しながら、授業を展開した。 ③また、教師は生徒や保護者、地域と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション力が求められるため、授業では学生自身が気づいたこと、感じたことなどを振り返るための「授業のまとめ」を毎時間提出させた。さらには、問われていることの意味の理解力や自分の考えをまとめ、伝えることのできる説得力などを身に付けるため採用試験における小論文対策のための指導と定期試験を含む3回の小論文実践をおこなった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された		達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83点であり、再試験者は0名であった。理想的レベル（概ね75点以上）を上回る結果であった。 本科目の試験は小論文であるため、与えられたテーマや課題に対しての知識や理解度とともに、自分の思いや考えをわかりやすく表現する文章表現力や説得力を評価するものである。講義の中で小論文の書き方指導を経て、2回にわたる論文小テストと振り返りを実施した。その結果回を重ねる毎に学生の論作技能の向上が見られた。 授業形態について、昨年度はコロナ禍の影響でグループ討議ができなかったとのことで、今年度は事例研究の際にグループディスカッションを取り入れ、学生自身の考えを積極的に発言しグループとしての意見をまとめ発表するという活動を実施した。司会、記録、発表者など役割分担して討議を進め、活発な意見交換が行われた。到達度自己評価では、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で100%が「そうだと思う」と回答していることから効果は十分あったと考える。 学修準備性においては、学習量の評価からあまり予習が行われていない状況を見ると、もう少し課題を与える必要があったかとも考えるが、学生の取り組みない理由からは「授業で多くのことを学んだ」「授業で十分だと思った」などの記述もあった。 教育現場で直面するリアルな問題に対して、教師がどのようにアプローチすれば良いのかグループでの話し合いや講義を通して知ることができた」というような意見があり、学校現場の具体的事例を中心に教師の様々な事案への対応について学習できたと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① C P カリキュラムマップ上における本科目の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、教員免許の取得に向けた内容であり、教職課程では必須である。全ての学生が教職の道に進むとは限らないが、学生の目標に応えるために、学校現場の生の状況に触れることで対応や指導方法を学ぶことができる授業であり妥当性があるものとする。 ② D P からみての内容的妥当性 先述したように、成績評価は論文や毎時間の振り返りレポートの記述を通して、教師として必要な判断力、表現力、説得力などの向上度合いを示すものであり、全ての学生の評価は確実に上がったことから内容的には妥当であったと考える。 ③自由記述からは「自分の考えだけにとどまらず、他の人の考えを聞くことで学べたことも多く、自分の視野を広げられた点がすごく良かった」「主体的に考えることができた」など、教員を目指して努力する学生の一助になったのではないかと考える。 ④まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、全ての項目において平均が4.3～4.5と比較的高かった。担当教員が振り返りレポートの学生からの質問や意見に対して回答やコメントを記述しコミュニケーションを図ったことや、授業では学校現場における生徒指導の現状と対応について担当教員の経験を踏まえて伝えたことが要因であると考えられる。さらに本年度から事例研究として「グループディスカッション」を取り入れ、自分の考えをはっきりと伝えること、他人の意見を聞いて視野を広めることなどを学ばせたことは効果的であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本年度が担当初年度であるため、多少戸惑いを感じながら授業を進めてきたが、教師を目指し真剣に講義を受ける学生の姿を見ると更に内容を工夫して、現場で即戦力となる教師の育成に努めなければならないと強く感じた。 「3. 授業準備について」で記述したように、昨今教師の業務の大変さから志望者が激減しているが、教師は子どもたちの成長する姿に感動することができ、その瞬間に関われるというやりがいのある職業であることを伝えてきたつもりである。今後学生が「何となく」ではなく「絶対教師になりたい」と思えるような授業を展開してまいりたい。